

(様式第10)

愛大医総第418号  
令和三年六月一日

厚生労働大臣 加藤 勝信 殿

国立大学法人愛媛大学  
学長 大橋 裕

愛媛大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成30年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒790-8577 松山市道後樋又10番13号
氏 名	国立大学法人愛媛大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

愛媛大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒791-0295 東温市志津川454	電話(089)964-1111
---------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜</p> <p>② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科
④腎臓内科	⑤神経内科	⑥血液内科
⑦内分泌内科	⑧代謝内科	⑨感染症内科
⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科	
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科      ②消化器外科      ③乳腺外科      ④心臓外科 ⑤血管外科      ⑥心臓血管外科      ⑦内分泌外科      ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科      ②小児科      ③整形外科      ④脳神経外科      ⑤皮膚科      ⑥泌尿器科      ⑦産婦人科 ⑧産科      ⑨婦人科      ⑩眼科      ⑪耳鼻咽喉科      ⑫放射線科      ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科      ⑮麻酔科      ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科      2矯正歯科      ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 膠原病・リウマチ内科      2 高血圧内科      3 アレルギー内科      4 糖尿病内科      5 老年内科 6 薬物療法内科      7 総合診療科      8 消化器腫瘍外科      9 食道・胃・大腸外科      10 内視鏡外科      11 肝胆膵・移植外科      12 乳腺・内分泌外科      13 形成外科      14 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 15 病理診断科      16 リハビリテーション科      17 臨床検査科
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	2床	一床	一床	602床	644床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	209人	164.3人	373.3人	看護補助者	59人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	7人	4.7人	11.7人	理学療法士	10人	臨床検査技師	47人
薬 剤 師	46人	0人	46人	作業療法士	3人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	7人	その他	0人
助 産 師	18人	0人	18人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	657人	16.3人	673.3人	臨床工学士	15人	医療社会事業従事者	11人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	14人
歯科衛生士	5人	0人	5人	歯科技工士	2人	事務職員	148人
管理栄養士	8人	1.5人	9.5人	診療放射線技師	32人	その他の職員	24人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	46人	眼科専門医	10人
外科専門医	33人	耳鼻咽喉科専門医	13人
精神科専門医	6人	放射線科専門医	27人
小児科専門医	24人	脳神経外科専門医	11人
皮膚科専門医	7人	整形外科専門医	19人
泌尿器科専門医	11人	麻酔科専門医	17人
産婦人科専門医	11人	救急科専門医	9人
		合 計	244人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (病院長 三浦 裕正) 任命年月日 平成30年 4月 1日

平成22年4月1日に整形外科の教授に就任後、診療科長として医療安全管理委員会の委員となり、平成27年4月1日に病院長に就任し、平成30年4月1日から2期目を迎えている。病院長に就任後は、医療安全管理委員会の委員長を務めている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	517.4人	10.8人	528.2人
1日当たり平均外来患者数	1,217.8人	56.1人	1,273.9人
1日当たり平均調剤数	入院 839.58剤 外来 39.15剤		
必要医師数	125.57人		
必要歯科医師数	4.16人		
必要薬剤師数	18人		
必要(准)看護師数	308人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	431 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	22床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 281m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	14床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 20m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	302m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動蛍光抗体法分析装置 全自動化学発光免疫測定装置			
細菌検査室	266m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 微生物感受性分析装置 リアルタイム濁度測定装置			
病理検査室	175m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 液状化検体細胞診標本作製装置 IHC/ISH自動染色装置			
病理解剖室	399m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 剖検台、局所排気装置			
研究室	314m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン、プロジェクター、顕微鏡			
講義室	734m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	18室	収容定員	660人
図書室	99m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	1,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	95.7%	逆紹介率	67.3%
算出根拠	A: 紹介患者の数		13,410人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,649人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		734人
	D: 初診の患者の数		14,475人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
西村 誠明	愛媛県立中央病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
大熊 伸定	弁護士法人松山中央弁護士事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
河野 和博	愛媛県難病等患者団体連絡協議会／愛媛県腎臓病患者連絡協議会		医療を受ける者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 愛媛大学ホームページの情報公開のページ内に、「附属病院における医療安全管理について」という事項を設け、監査委員会規程及び委員会名簿 (選定理由を含む) を公表している。	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	35人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	24人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	3人
	人
	人
	人
※平成31年4月より保険収載された先進医療について	
なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
インターフェロンα皮下投与及びジドブシン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	0人
ベペルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法 閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病(血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	0人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中樞神経系原発悪性リンパ腫(病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が脳、小脳又は脳幹であるものに限る。)	0人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	0人
※平成31年4月より保険収載された先進医療について	
マルチプレックス遺伝子パネル検査(令和元年6月1日)	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病	74
2	筋萎縮性側索硬化症	28	57	特発性拡張型心筋症	45
3	脊髄性筋萎縮症	5	58	肥大型心筋症	12
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	26
6	パーキンソン病	140	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	7	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	57
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリエー・トウース病	1	65	原発性免疫不全症候群	7
11	重症筋無力症	76	66	IgA腎症	6
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	18
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	106	68	黄色靱帯骨化症	35
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	21	69	後縦靱帯骨化症	96
15	封入体筋炎	4	70	広範脊柱管狭窄症	6
16	クローウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	89
17	多系統萎縮症	20	72	下垂体性ADH分泌異常症	15
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	23	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	5
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	36	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	25
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	21
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	5	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	14	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	65
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	67
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	8
32	自己食貪空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3
34	神経線維腫症	18	89	リンパ脈管筋腫症	4
35	天疱瘡	32	90	網膜色素変性症	27
36	表皮水疱症	7	91	パッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	3	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	47
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	21	95	自己免疫性肝炎	36
41	巨細胞性動脈炎	6	96	クローン病	62
42	結節性多発動脈炎	13	97	潰瘍性大腸炎	130
43	顕微鏡的多発血管炎	58	98	好酸球性消化管疾患	4
44	多発血管炎性肉芽腫症	21	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	24	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	1	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	5	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	184	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	97	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	79	106	クリオピリン関連周期性熱症候群	0
52	混合性結合組織病	48	107	全身型若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	32	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人ステル病	30	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	9	110	ブラウ症候群	0

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	3
113	筋ジストロフィー	7	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	2
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	7
122	脳表ヘモジドリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	1
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	6	177	有馬症候群	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	1
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マガニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	2
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	1
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	12	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	5	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	9
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
232	カーニー複合	1	280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・レノネー・ウェーバー症候群	5
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	2	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	4
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	1	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	3
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	2
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	39

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャスルマン病	6

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	後発医薬品使用体制加算1
歯科外来診療環境体制加算2	病棟薬剤業務実施加算1
歯科診療特別対応連携加算	病棟薬剤業務実施加算2
特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1	データ提出加算2
特定機能病院入院基本料 精神病棟 13対1	入退院支援加算1
超急性期脳卒中加算	入院時支援加算
診療録管理体制加算2	精神疾患診療体制加算
医師事務作業補助体制加算1(20対1)	特定集中治療室管理料4
急性期看護補助体制加算25対1（看護補助者5割以上）	特定集中治療室管理料4 小児加算
看護補助加算2	特定集中治療室管理料4 早期離床・リハビリテーション加算
療養環境加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
重症者等療養環境特別加算	新生児特定集中治療室管理料1
無菌治療室管理加算1 (常時 100クラス6以上・空調設備方式要件)	新生児治療回復室入院医療管理料
無菌治療室管理加算2 (常時 100クラス7以上)	一類感染症患者入院医療管理料
緩和ケア診療加算	小児入院医療管理料2 (3号館2階)
精神科身体合併症管理加算 (精神科病棟届出に同期する)	小児入院医療管理料2 (1号館6階)
栄養サポートチーム加算	短期滞在手術等基本料2
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1	
感染防止対策地域連携加算	
抗菌薬適正使用支援加算	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
総合評価加算	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
糖尿病合併症管理料	検体検査管理加算(I)
がん性疼痛緩和指導管理料	検体検査管理加算(IV)
がん患者指導管理料イ	国際標準検査管理加算
がん患者指導管理料ロ	遺伝カウンセリング加算
がん患者指導管理料ハ	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
外来緩和ケア管理料	胎児心エコー法
移植後患者指導管理料-(イ)臓器移植後の場合	時間内歩行試験
移植後患者指導管理料-(ロ)造血幹細胞移植後の場合	シャトルウォーキングテスト
糖尿病透析予防指導管理料	ヘッドアップティルト試験
ニコチン依存症管理料	長期継続頭蓋内脳波検査
相談体制充実加算(療養・就労両立支援指導料)	皮下連続式グルコース測定
がん治療連携計画策定料	神経学的検査
肝炎インターフェロン治療計画料	補聴器適合検査
薬剤管理指導料	ロービジョン検査判断料
医療機器安全管理料1	コンタクトレンズ検査料1
医療機器安全管理料2	小児食物アレルギー負荷検査
医療機器安全管理料(歯科)	内服・点滴誘発試験
歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	CT透視下気管支鏡検査加算
在宅患者訪問看護・指導料(3)悪性腫瘍の患者に対する緩和ケア、褥瘡ケア又は人工肛門ケア及び人工膀胱ケアに係る専門の研修を受けた看護師による場合	画像診断管理加算2
在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	遠隔画像診断
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	ポジトロン断層撮影及びポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影
持続血糖測定器加算	CT撮影及びMRI撮影
遺伝学的検査	冠動脈CT撮影加算
骨髓微小残存病変量測定	心臓MRI撮影加算
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	乳房MRI撮影加算
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	抗悪性腫瘍剤処方管理加算

施設基準の種類	施設基準の種類
外来化学療法加算1	骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)
無菌製剤処理料	後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
初期加算	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
脳血管疾患等リハビリテーション料(II)	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術
初期加算	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
運動器リハビリテーション料(I)	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
初期加算	治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))
呼吸器リハビリテーション料(I)	羊膜移植術
初期加算	緑内障手術(5) 緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)
がん患者リハビリテーション料	緑内障手術(6) 水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))
リンパ浮腫複合的治療料	網膜再建術
歯科口腔リハビリテーション料2	人工中耳植込術
精神科作業療法	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
認知療法・認知行動療法1	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術及び人工内耳用材料
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
医療保護入院等診療料	喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
硬膜外自家血注入	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
(人工腎臓)導入期加算1	乳がんセンチネルリンパ節加算1
加圧根管充填処置3根管以上に係る手術用顕微鏡加算	乳がんセンチネルリンパ節加算2
CAD/CAM冠	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
歯科技工加算	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
皮膚悪性腫瘍切除術におけるセンチネルリンパ節加算	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合)	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)

施設基準の種類	施設基準の種類
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膈腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	生体部分肝移植術
	同種死体肝移植術
	腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
胸腔鏡下弁形成術	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
胸腔鏡下弁形成術（内視鏡的手術用支援機器を用いる場合）	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
経カテーテル大動脈弁置換術	同種死体腎移植術
胸腔鏡下弁置換術	生体腎移植術
経皮的中隔心筋焼灼術	膀胱水圧拡張術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	腹腔鏡下仙骨腔固定術
大動脈バルーンポンピング法（IABP法）	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）
経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る）
経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）（小児対象）	胎児胸腔・羊水腔シャント術
補助人工心臓	輸血管理料Ⅰ
小児補助人工心臓	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
植込型補助人工心臓（非拍動流型）	歯根端切除手術（1歯につき）（歯科用3次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いた場合）
内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切除術	歯周組織再生誘導手術
腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	麻酔管理料（Ⅰ）
腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）	麻酔管理料（Ⅱ）
腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	放射線治療専任加算
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）	外来放射線治療加算
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	高エネルギー放射線治療
胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）	1回線量増加加算
腹腔鏡下肝切除術	強度変調放射線治療（IMRT）



施設基準の種類	施設基準の種類
画像誘導放射線治療加算 (IGRT)	
直線加速器による放射線治療	
定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
保険医療機関間の連携による病理診断	
病理診断管理加算2	
デジタル病理画像による病理診断	
悪性腫瘍病理組織標本加算	
歯科矯正診断料	
口腔病理診断管理加算2	
クラウン・ブリッジ維持管理料	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
前眼部三次元画像解析	・
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	・
内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術	・
マルチプレックス遺伝子パネル検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	17回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 17 例 / 剖検率 10 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究	高田 清式	医学部附属病院	11,700,000	○補委 厚生労働省
小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の発展に資する研究	檜垣 高史	大学院医学系研究科	12,000,000	○補委 厚生労働省
自己免疫疾患における抗原特異的免疫抑制療法の確立に向けた研究	長谷川 均	大学院医学系研究科	910,000	○補委 日本学術振興会
サルコペニアの嚥下機能低下様式の解明-筋萎縮分子機構の解明-	田中 加緒里(西窪加緒里)	大学院医学系研究科	260,000	○補委 日本学術振興会
急性心筋梗塞における内皮Toll様受容体を介した冠微小循環傷害の分子機序の解明	倉田 美恵	プロテオサイエンスセンター	1,040,000	○補委 日本学術振興会
質量分析による肝炎ウイルス診断法の開発	武森 信暁	学術支援センター	1,560,000	○補委 日本学術振興会
テロメア合成酵素が大動脈弁狭窄症の発症・進展に与える影響	青野 潤	医学部附属病院	780,000	○補委 日本学術振興会
インターロイキン(IL)-18の血圧調節機構の解明	大蔵 隆文	大学院医学系研究科	1,040,000	○補委 日本学術振興会
エピジェネティクス規定SNPと環境因子によるレジスチン遺伝子発現調節機構の解明	大澤 春彦	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委 日本学術振興会
先天性血小板減少症の新規原因GPR遺伝子とその機能解析	山之内 純	医学部附属病院	1,560,000	○補委 日本学術振興会
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルス特異的免疫応答の解析	末盛 浩一郎	医学部附属病院	1,430,000	○補委 日本学術振興会
MLL転座型白血病の白血病幹細胞の機能的マーカー探索と治療応用に向けた基礎的研究	江口 真理子	大学院医学系研究科	910,000	○補委 日本学術振興会
皮膚抗菌ペプチド発現異常の改善を利用した掌蹠膿疱症の治療開発	村上 正基	大学院医学系研究科	1,170,000	○補委 日本学術振興会
ヒト表皮角化細胞におけるIκB $\zeta$ によるIL-17誘導性遺伝子発現制御の解明	藤山 幹子	大学院医学系研究科	1,170,000	○補委 日本学術振興会
神経生理指標を用いた発達障害児の早期兆候に関する研究	堀内 史枝	医学部附属病院	1,040,000	○補委 日本学術振興会
心停止ドナー肝移植のグラフト機能保護と術前評価:本邦での導入を目指す前臨床研究	高田 泰次	大学院医学系研究科	650,000	○補委 日本学術振興会
大動脈弁狭窄症バイオマーカーの探索と病態発症機序の解明	泉谷 裕則	大学院医学系研究科	1,430,000	○補委 日本学術振興会
サルコペニア肥満に対する筋肉内異所性脂肪沈着に着目した新規治療法・運動療法の探索	茂木 正樹	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委 日本学術振興会
脊髄損傷に対する、肋間神経移行術による脊髄回路再生の研究	森野 忠夫	医学部附属病院	1,560,000	○補委 日本学術振興会
子宮内環境は正への治療的戦略:次世代の生活習慣病発症予防を目指して	杉山 隆	大学院医学系研究科	1,300,000	○補委 日本学術振興会
顔面神経麻痺後遺症の克服に向けた新規治療法の開発	羽藤 直人	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委 日本学術振興会

小計21件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				○補委	
頭頸部扁平上皮がんリンパ節転移におけるLOXL2の効果	鵜久森 徹	大学院医学系研究科	1,690,000	○補委	日本学術振興会
ジンセンノサイドRb1及びその化学的誘導体の神経外傷治療効果に関する研究	阪中 雅広	大学院医学系研究科	910,000	○補委	日本学術振興会
脈管内を移動する癌細胞を標的とした転移制御研究	日野 聡史	医学部附属病院	1,040,000	○補委	日本学術振興会
ICTを活用した小児1型糖尿病患者への糖尿病自己管理教育支援の効果	薬師神 裕子	大学院医学系研究科	1,170,000	○補委	日本学術振興会
脂腺細胞の分泌膜小胞セゾームの構築と周辺組織への脂質供給機構	永井 彩子	医学部附属病院	780,000	○補委	日本学術振興会
更年期女性の不定愁訴に対する経耳道光照射法の効果の探索	城賀本 晶子	大学院医学系研究科	130,000	○補委	日本学術振興会
レジスチンSNP・環境因子相互作用を標的としたインスリン抵抗性疾患の個別化医療	川村 良一	大学院医学系研究科	1,300,000	○補委	日本学術振興会
在宅療養中の高齢糖尿病患者の生活と支援システムに関する研究	寺尾 奈歩子	大学院医学系研究科	650,000	○補委	日本学術振興会
経管栄養患者の下痢症状を改善するためのケアプログラムの開発とその効果	小岡 亜希子	大学院医学系研究科	390,000	○補委	日本学術振興会
Cadaver(ご遺体)と大型動物を用いた腹腔鏡下上方照明システムの前臨床的研究	高井 昭洋	医学部附属病院	1,950,000	○補委	日本学術振興会
一般住民において、レジスチン遺伝子多型が耐糖能異常に及ぼす影響とメカニズムの解明	高田 康德	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
2型糖尿病における夜間の生活行動・睡眠状況と糖尿病合併症に関する臨床疫学研究	古川 慎哉	大学院医学系研究科	1,690,000	○補委	日本学術振興会
伝統薬物成分の免疫機能と腫瘍環境制御による抗腫瘍・抗転移効果とその作用機構	木村 善行	大学院医学系研究科	2,080,000	○補委	日本学術振興会
アルツハイマー病のインスリンシグナル障害とアポモルフィン・インスリン複合治療	大八木 保政	大学院医学系研究科	1,820,000	○補委	日本学術振興会
消化管ホルモン受容体相互連関および機能発現機構の解析	松浦 文三	大学院医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
肥大型心筋症の心不全発症メカニズム-トランスクリプトーム網羅解析からの検討-	池田 俊太郎	医学部附属病院	1,430,000	○補委	日本学術振興会
新規キメラ型抗原受容体遺伝子を用いる成人T細胞白血病に対する免疫療法	谷本 一史	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
NICU入室新生児におけるピフィズ菌製剤の投与による正常腸内細菌叢の獲得	田内 久道	医学部附属病院	1,430,000	○補委	日本学術振興会
小児白血病の前白血病幹細胞の同定と標的治療の開発の試み	江口 峰斉	医学部附属病院	1,430,000	○補委	日本学術振興会
光干渉断層法を用いた先天性心疾患患者の狭窄性病変に対する組織学的診断法の確立	高田 秀実	大学院医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
心房細動のバイオマーカーとしてのPETおよび半導体SPECTの有用性の検討	宮川 正男	医学部附属病院	910,000	○補委	日本学術振興会
軸索誘導因子セマフォニンによる薬剤抵抗性乳癌を標的にした新規治療戦略	亀井 義明	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
肺がんにおけるNEDD8を介したPD-L1発現制御機構の解明とその臨床応用	佐野 由文	大学院医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
脳内レニン・アンジオテンシン系保護軸活性化による脳保護作用の解明	岩波 純	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会

小計24件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				○補委	
梗塞巣への細胞浸潤を促進して脳梗塞を治す	久門 良明	大学院医学系研究科	1,300,000	○補委	日本学術振興会
呼吸終末陽圧負荷による輸液過剰の検出アルゴリズムの開発	池宗 啓蔵	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
一過性の脳虚血障害が脳内アミロイドβ代謝と認知症発症に与える影響についての検討	関 莉娟	大学院医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
前立腺がん細胞におけるCUL3システム破綻の解明と新規治療標的の創出	菊川 忠彦	大学院医学系研究科	1,300,000	○補委	日本学術振興会
角膜実質再生を目指した骨髄線維芽細胞移植のバイオイメージング解析	林 康人	大学院医学系研究科	910,000	○補委	日本学術振興会
マウス表皮細胞から角膜上皮細胞への形質転換における上皮-実質間相互作用の検討	白石 敦	大学院医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
三次元培養皮膚におけるエクリン汗腺の再現	亀田 健治	学術支援センター	1,170,000	○補委	日本学術振興会
脊髄損傷急性期の積極的平温療法は、二次損傷による神経学的予後の悪化を防ぐか	竹葉 淳	大学院医学系研究科	1,170,000	○補委	日本学術振興会
一酸化炭素中毒による遅発性脳症発症の分子メカニズム解明のための研究	萬家 俊博	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
幼児期及び学童期における齲蝕リスク要因の解明を目指した出生前コホート研究	田中 景子	大学院医学系研究科	1,950,000	○補委	日本学術振興会
喉頭全摘術を受けるがん患者とパートナーの首尾一貫感覚を高める看護実践モデルの開発	山内 栄子	大学院医学系研究科	780,000	○補委	日本学術振興会
生殖補助医療を受けた女性の妊娠初期の適応を支援するオンラインプログラムの効果	崎山 貴代	大学院医学系研究科	1,040,000	○補委	日本学術振興会
高齢者の潜在する排泄機能に気づく経験を活用した看護・介護職教育プログラムの開発	陶山 啓子	大学院医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
認知症の同意・判断能力の簡易判定法の確立	谷向 知	大学院医学系研究科	390,000	○補委	日本学術振興会
発達障害児の親のメンタリング過程により構築する包括的ケアプログラムの開発	西嶋 真理子	大学院医学系研究科	910,000	○補委	日本学術振興会
核ラミナによるクロマチン構造変化を介したT細胞老化制御機構の解明	鈴木 淳平	大学院医学系研究科	1,820,000	○補委	日本学術振興会
睡眠障害の治療が就労状況に及ぼす影響に関する縦断的研究	淡野 桜子	医学部附属病院	910,000	○補委	日本学術振興会
サルコペニア、フレイル、動脈硬化、インスリン代謝と認知機能の相関解析	越智 雅之	大学院医学系研究科	650,000	○補委	日本学術振興会
細胞外ATPによる肝星細胞の活性化、肝線維化進展機序の解明	吉田 理	医学部附属病院	1,820,000	○補委	日本学術振興会
流体力学の理論と実験的手法を用いた冠血流動態の解析	清家 史靖	医学部附属病院	1,170,000	○補委	日本学術振興会
Cキナーゼ阻害剤で誘導した免疫寛容樹状細胞を用いた抗原特異的免疫抑制療法の研究	松本 卓也	医学部附属病院	1,170,000	○補委	日本学術振興会
定量プロテオミクスによるANCA関連血管炎の活動性/臓器障害マーカーの同定と解析	石崎 淳	医学部附属病院	1,040,000	○補委	日本学術振興会
重症薬疹の早期診断法の開発	難波 千佳	医学部附属病院	1,690,000	○補委	日本学術振興会
白血球のDRD2メチル化率を用いたバイオマーカーの探索	吉野 祐太	医学部附属病院	1,820,000	○補委	日本学術振興会

小計24件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				○補委	
アルツハイマー型認知症の病態とABCA7遺伝子の役割	山崎 聖広	医学部附属病院	1,430,000	○補委	日本学術振興会
思春期における発達障害とインターネット依存の関連と介入効果の検討	河邊 憲太郎	医学部附属病院	1,300,000	○補委	日本学術振興会
乳癌細胞の不均一性を制御するCullin3ユビキチンリーガーゼ複合体の同定と解析	村上 朱里	医学部附属病院	2,080,000	○補委	日本学術振興会
腹部大動脈瘤発症におけるLOX-1の役割についての検討	末廣 千佳	医学部附属病院	2,080,000	○補委	日本学術振興会
IL3とGM-CSFの併用投与による脳梗塞病態の改善・脳と骨髄をつなぐ研究	チョードリ エマムツ セレピン	大学院医学系研究科	650,000	○補委	日本学術振興会
神経因性疼痛モデル脊髄前角と後角で異なるマイクログリアの反応:神経保護性と傷害性	西原 佑	医学部附属病院	1,820,000	○補委	日本学術振興会
婦人科がんを標的とした細胞内グルタミン代謝調節によるCD8T細胞の抗腫瘍活性増強	安岡 稔晃	医学部附属病院	1,430,000	○補委	日本学術振興会
急性病態における血液凝固線溶動態の解明と治療戦略の構築	松本 紘典	医学部附属病院	2,080,000	○補委	日本学術振興会
エピゲノム制御因子Uhrfl1の関節リウマチ病態における機能解析	佐伯 法学	学術支援センター	2,470,000	○補委	日本学術振興会
マクロファージが産生・分泌する骨芽細胞遊走因子の同定と機能解明	小原 幸弘	大学院医学系研究科	2,210,000	○補委	日本学術振興会
難病から『インフラソーム病』を独立させ、分子標的に基いた診断の再編成を加速する	増本 純也	プロテオサイエンスセンター	2,600,000	○補委	日本学術振興会
クロマチン情報に基づく新規骨粗鬆症治療標的分子の解析	今井 祐記	プロテオサイエンスセンター	3,770,000	○補委	日本学術振興会
地域医療実習での地域診断手法の導入による地域志向性の滋養に関する研究	川本 龍一	大学院医学系研究科	520,000	○補委	日本学術振興会
成長板を発生起点とする骨髄造血ニッチ形成メカニズムの解析	原口 竜摩	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
体細胞初期化におけるTET1とp53の協調作用メカニズムの解明	徳澤 佳美	大学院医学系研究科	1,950,000	○補委	日本学術振興会
RSKキナーゼ群の機能差を生み出す分子基盤の解明と阻害剤による乳がん抑制への応用	福田 信治	プロテオサイエンスセンター	1,560,000	○補委	日本学術振興会
新規CUL3複合体による血管新生ブレーキ解除機構の解明	坂上 倫久	大学院医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
膵癌早期診断を目指した高危険度因子の同定および進行膵癌化学療法適応基準の提唱	熊木 天児	大学院医学系研究科	1,300,000	○補委	日本学術振興会
二分脊椎運動障害の内科的治療法の確立ープロサポシン由来ペプチドの臨床応用ー	カーン モハメド シャキル	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
Toll様受容体を標的とした制御性B細胞誘導による多発性硬化症の新規治療法の開発	越智 博文	大学院医学系研究科	1,820,000	○補委	日本学術振興会
老年期うつ病とアルツハイマー型認知症の鑑別を目指した血液バイオマーカー研究	伊賀 淳一	大学院医学系研究科	910,000	○補委	日本学術振興会
肝がん治療支援システムの開発と遠隔診療体制の確立	廣岡 昌史	医学部附属病院	780,000	○補委	日本学術振興会
脂肪性肝疾患の肝線維化におけるB細胞活性化因子の役割	阿部 雅則	大学院医学系研究科	1,690,000	○補委	日本学術振興会
慢性肝障害および肝発癌、進展におけるERストレス、PERKの役割	日浅 陽一	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				○補委	
非平衡大気圧プラズマ(冷たいプラズマ)を用いたメラノーマに対する新規治療法の開発	白石 研	医学部附属病院	780,000	○補委	日本学術振興会
乾癬の炎症におけるグリコサミノグリカンの役割の解明と新規治療法の開発	武藤 潤	医学部附属病院	1,430,000	○補委	日本学術振興会
多発性骨髄腫に対する新規CAR-T細胞療法の開発	朝井 洋晶	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
新たな抗体改変技術を利用したがんに対する革新的免疫療法の開発研究	越智 俊元	大学院医学系研究科	1,300,000	○補委	日本学術振興会
血小板減少症/血栓性素因におけるG蛋白質共役型受容体GPR25の関与と機能の検討	羽藤 高明	医学部附属病院	1,430,000	○補委	日本学術振興会
白血病に対するネオアンチゲン特異的な革新的遺伝子改変ヘルパーT細胞療法の開発	藤原 弘	医学部附属病院	1,690,000	○補委	日本学術振興会
関節組織再生における関節リウマチ治療薬の薬理効果プロファイリング	劉 爽	大学院医学系研究科	1,690,000	○補委	日本学術振興会
Bach2-IL-7経路によるTpath2分化とアレルギー性気道炎症制御の解明	桑原 誠	大学院医学系研究科	1,820,000	○補委	日本学術振興会
細胞極性制御複合体Exocyst-Par3の機能解析と乳がん治療への応用	福田 尚代(西田尚代)	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
先天性心臓手術における生体親和性ナノ複合代用心膜による心膜再生素材と治療法の開発	打田 俊司	医学部附属病院	1,950,000	○補委	日本学術振興会
軽度外傷性脳損傷におけるインフラマソームを介した自然炎症の関与	朱 鵬翔	大学院医学系研究科	1,820,000	○補委	日本学術振興会
二分脊椎異常回路の二光子顕微鏡による立体的解析	松田 正司	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
膠芽腫幹細胞が眠るInvasion nicheの機能解析と幹細胞破綻環境の探索	井上 明宏	医学部附属病院	650,000	○補委	日本学術振興会
前十字靭帯再建型人工膝関節の開発:機能解析と最適化	日野 和典	大学院医学系研究科	2,080,000	○補委	日本学術振興会
前立腺癌におけるCUL3型ユビキチンリガーゼによるPSMAの蛋白発現制御機構解析	三浦 徳宣	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
前立腺癌の骨転移分子メカニズム解明に基づく革新的治療/予防法の探索	雑賀 隆史	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
頭頸部扁平上皮がんのリンパ節転移に対する集学的抗転移治療の開発	矢野 元	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
皮膚常在菌及びHMGB1 A-BOXによる難治性皮膚潰瘍に対する新規治療法の開発	森 秀樹	大学院医学系研究科	1,690,000	○補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌における転移関連 microRNA の探索	徳善 紀彦	医学部附属病院	1,300,000	○補委	日本学術振興会
地域住民を対象とする糖尿病罹患率の推計に関する疫学研究	斉藤 功	大学院医学系研究科	650,000	○補委	日本学術振興会
MCIscreenおよびSAFを用いた軽度認知障害早期診断の有用性の検討	伊賀瀬 道也	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
皮膚バリア機能と皮膚知覚との関係から考える効果的なスキンケアの検討	佐伯 由香	大学院医学系研究科	2,730,000	○補委	日本学術振興会
散発性アルツハイマー病解明に向けた脳におけるアポE含有リポタンパク代謝経路の解析	藤野 貴広	学術支援センター	1,300,000	○補委	日本学術振興会
ラマン分光法によるがん転移モデルの動態解析と診断・治療への応用	古賀 繁宏	医学部附属病院	2,210,000	○補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				○補委	
マラリア原虫特異的ロブトリー分泌型タンパク質の肝臓感染における役割の解明	馬場 みなみ	プロテオサイエンスセンター	1,690,000	○補委	日本学術振興会
エンドソーム局在型ユビキチンE3リガーゼによる血管新生制御の分子機構	前川 大志	プロテオサイエンスセンター	1,560,000	○補委	日本学術振興会
ラットによる間歇型一酸化炭素中毒の病態解明及び治療の究明	越智 紳一郎	大学院医学系研究科	1,950,000	○補委	日本学術振興会
ユビキチンE3リガーゼ複合体を標的とした乳児血管腫の新規治療薬の探索	手束 真理	医学部附属病院	1,690,000	○補委	日本学術振興会
肝硬変患者における臍うっ血からみた肝性糖尿病の機序解明	黒田 太良	大学院医学系研究科	1,820,000	○補委	日本学術振興会
PKRによる肝細胞癌増殖と代謝分子制御の機序解析および新規治療標的の探索	渡辺 崇夫	医学部附属病院	1,430,000	○補委	日本学術振興会
膵癌におけるインフラマソームおよびASCの役割と癌進展との関連	小泉 光仁	医学部附属病院	1,690,000	○補委	日本学術振興会
効果的な大腸癌治療を志向した新規抗血管新生医薬品のシーズ化合物の探索	谷川 和史	医学部附属病院	1,690,000	○補委	日本学術振興会
大動脈弁狭窄症の治療標的分子の同定および治療薬の開発について	浪口 謙治	医学部附属病院	1,820,000	○補委	日本学術振興会
骨格筋内AMP活性化酵素は敗血症予後と関連するか	菊池 聡	大学院医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
革新的受容体合成技術を利用した新規核酸医薬品(アナフィラキシー予防薬)の開発	鈴木 康之	医学部	1,300,000	○補委	日本学術振興会
脳梗塞マクログリアの網羅的機能解析:そのダイナミクスと治療応用	松本 調	医学部附属病院	1,690,000	○補委	日本学術振興会
真珠腫の術中蛍光診断の開発に課する研究	阿部 康範	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
眼表面摩擦係数測定機の開発と眼表面疾患診断における有用性の検討	坂根 由梨	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
しびれ評価のためのアセスメントツール開発に向けた基礎的研究	赤松 公子	大学院医学系研究科	2,600,000	○補委	日本学術振興会
マラリア原虫分子LISP2は宿主細胞核に移行後どのように宿主細胞を制御するのか?	石野 智子	プロテオサイエンスセンター	3,510,000	○補委	日本学術振興会
口腔顔面骨格痛シグナルのトランス・オミクス探索と創薬分子情報基盤の構築	飯村 忠浩	学術支援センター	3,120,000	○補委	日本学術振興会
無染色イメージング技術を基盤とする軟骨変性疾患の病態解析と臨床応用展開	清松 悠	医学部附属病院	2,470,000	○補委	日本学術振興会
革新的イメージング技術とがんモデルメダカを駆使したがん転移研究	今村 健志	大学院医学系研究科	27,820,000	○補委	日本学術振興会
細胞老化によるネオ・セルフ生成の分子機構解明	山下 政克	大学院医学系研究科	3,900,000	○補委	日本学術振興会
トップダウンプロテオミクスによる分子複雑環境におけるタンパク質分子の構造解析	武森 信暁	学術支援センター	2,860,000	○補委	日本学術振興会
代謝ーエピゲノムのクロストークによる慢性アレルギー性炎症の細胞社会形成	山下 政克	大学院医学系研究科	4,030,000	○補委	日本学術振興会
睡眠教育パッケージの開発と教育現場における改善効果の検証	岡 靖哲	医学部附属病院	4,160,000	○補委	日本学術振興会
血管新生におけるCUL3システムネットワークの解明	東山 繁樹	プロテオサイエンスセンター	4,680,000	○補委	日本学術振興会



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
非定型的DNAメチル化修飾を指標とする腫瘍初期病変の同定	北澤 荘平	大学院医学系研究科	5,070,000	○補委	日本学術振興会
スポロゾイトの肝細胞侵入におけるRON3の作用機序の解明とレセプターの同定	石野 智子	プロテオサイエンスセンター	5,590,000	○補委	日本学術振興会
網羅的分子解析による口腔癌複合免疫化学療法の開発	浜川 裕之	大学院医学系研究科	2,080,000	○補委	日本学術振興会
新規三日熱マリアワクチン候補抗原(PvGs24)の伝搬阻止効果の解析	鳥居 本美	プロテオサイエンスセンター	5,460,000	○補委	日本学術振興会
T細胞代謝リプログラミングによる免疫応答制御機構の解明	山下 政克	大学院医学系研究科	5,980,000	○補委	日本学術振興会
幼児期行動的問題に関する遺伝要因と環境要因の交互作用解明を目的とした疫学研究	三宅 吉博	大学院医学系研究科	5,200,000	○補委	日本学術振興会
トルコと日本の自己炎症疾患発症責任分子複合体を活性化する生体・環境因子の比較調査	増本 純也	プロテオサイエンスセンター	5,590,000	○補委	日本学術振興会
途上国における子宮内胎児死亡対策の実証研究	岡 靖哲	医学部附属病院	4,030,000	○補委	日本学術振興会
一酸化窒素系を介した精神障害の発症機序を遺伝学的に解析する集団ベース研究	上野 修一	大学院医学系研究科	9,880,000	○補委	日本学術振興会
新規抗体改変技術を用いたがん特異的一本鎖抗体の作製とがん免疫療法への応用	安川 正貴	プロテオサイエンスセンター	7,280,000	○補委	日本学術振興会
神経・骨連関による頭蓋顎顔面領域の成熟機能骨・再生機構の解明	飯村 忠浩	学術支援センター	6,500,000	○補委	日本学術振興会
新規患者組織移植モデルを用いた全般的疾患モデル構築による腫瘍幹細胞純化と創薬支援	竹中 克斗	大学院医学系研究科	6,500,000	○補委	日本学術振興会
ヒト乳腺オルガノイド培養を用いた細胞極性制御機構の解析と乳がん治療への応用	福田 尚代	大学院医学系研究科	1,300,000	○補委	日本学術振興会
初期発生におけるAc/N-end ruleの果たす役割について	竹越 大輔	大学院医学系研究科	800,000	○補委	日本学術振興会
日本人2型糖尿病患者における血清脂質と糖尿病腎症に関する他施設共同疫学研究	仙波 英徳	医学部附属病院	1,170,000	○補委	日本学術振興会
microRNAによる劣化メカニズム制御と血液脳関門保護による抗認知症療法の構築	外山 研介	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
血管超音波を用いた神経疾患の血管内皮機能に関する解析	岡田 陽子	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
統合的解析を駆使したアンドロゲンによる骨格筋制御メカニズムの解明	酒井 大史	プロテオサイエンスセンター	1,560,000	○補委	日本学術振興会
変異SPOPシステムを標的とした新規前立腺がん治療薬の開発	東山 繁樹	プロテオサイエンスセンター	15,600,000	補委 ○	日本医療研究開発機構
核酸アナログ離脱を目的とするB型肝炎ウイルスに対する免疫治療法の開発	日浅 陽一	大学院医学系研究科	20,800,000	補委 ○	日本医療研究開発機構
国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	高田 清式	医学部附属病院	500,000	補委 ○	日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルスの感染複製増殖機構解明による創薬基盤形成に関する研究	アクバル シェイク モハマド ファズレ	大学院医学系研究科	4,940,000	補委 ○	日本医療研究開発機構
法施行前より実施中の特定臨床研究審査委員会に関する調査	永井 将弘	医学部附属病院	4,380,420	補委 ○	日本医療研究開発機構

小計24件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補 ○委	日本医療 研究開発 機構
重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)に対する診断・治療・予 防法の開発及びヒトへの感染リス クの解明等に関する研究	安川 正貴	プロテオサイエンスセ ンター	14,576,152	補 ○委	日本医療 研究開発 機構
				補 委	
				補 委	

計 168

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Maya Masuda, Shinichi Watanabe, Mamoru Tanaka, et al.	医療薬学	Screening of furanocoumarin derivatives as cytochrome P450 3A4 inhibitors in citrus	J Clin Pharm Ther 43, 15-20 (2018)	Original Article
2	Katsuya Suemaru, Misato Yoshikawa, Akihiro Tanaka, et al.	医療薬学	Anticonvulsant effects of acetaminophen in mice: Comparison with the effects of nonsteroidal anti-inflammatory drugs.	Epilepsy Res 140, 22-28 (2018)	Original Article
3	Satoshi Murakami, Yuichi Tasaka, Shingo Takatori, et al.	医療薬学	Effect of Eucommia ulmoides Leaf Extract on Chronic Dextran Sodium Sulfate-Induced Colitis in Mice	Biol Pharm Bull 41, 864-868 (2018)	Original Article
4	Farzana Islam, Md. Sakirul Islam Khan, Hiroaki Nabeka, et al.	解剖学・発生学	Prosaposin and its receptors are differentially expressed in the salivary glands of male and female rats;	Cell Tissue Res, CTR-17-0327.R2, 2018	Original Article
5	Tachibana T, Kodomoto Y, Khan MSI, et al.	解剖学・発生学	Effect of L-tryptophan and its metabolites on food passage from the crop in chicks. Tachibana T, Kodomoto Y, Khan MSI, Makino R, Cline MA.	Domestic Animal Endocrinology 64: 59-65. DOI: <a href="https://doi.org/10.1016/j.domaniend.2018.03.001">https://doi.org/10.1016/j.domaniend.2018.03.001</a> , 2018	Original Article
6	Tachibana T, Ishimaru Y, Makino R, et al.	解剖学・発生学	Effect of central injection of tumor-necrosis factor-like cytokine 1A and interferons on food intake in chicks.	Physiology & Behavior 194: 199-204. DOI: <a href="https://doi.org/10.1016/j.physbeh.2018.05.015">https://doi.org/10.1016/j.physbeh.2018.05.015</a> , 2018	Original Article
7	Ikegawa Y, Shiraishi A, Hayashi Y, et al.	眼科学	In vivo Confocal Microscopic Observations of vortex Keratopathy in Patients with Amiodarone-Induced Keratopathy and Fuchs Disease	J Ophthalmol. 2018 Mar 21;2018:5315137.	Original Article
8	Naito T, Yoshikawa K, Namiguchi K, et al.	眼科学	Comparison of success rates in eye drop instillation between sitting position and supine position.	PLoS One. 2018 Sep 20;13(9):e0204363.	Original Article
9	Suzuki T, Okamoto S, Oka N, et al.	眼科学	Role of pydE Pyoverdine Synthesis in Pseudomonas aeruginosa Keratitis.	Cornea. 2018 Nov;37 Suppl 1:S99-S105.	Original Article
10	Eitoku M, Kato H, Suganuma N, et al.	機能組織学	Markers associated with neuron-specific Ube3a imprinting during neuronal differentiation of mouse embryonic stem cells.	Cytotechnology. 2018 Feb; 70(1): 45-53. doi: 10.1007/s10616-017-0126-z.	Original Article
11	Hamada K, Takagi S, Kuboshima H, et al.	産婦人科学	Cloning of carrier cells infected with oncolytic adenovirus driven by midkine promoter and biosafety studies.	J Gene Med. 2018 Dec 13:e3064. (Epub ahead of print)	Original Article
12	Suzumori N, Sekizawa A, Matsubara K, et al.	産婦人科学	Classification of factors involved in nonreportable results of noninvasive prenatal testing (NIPT) and prediction of success rate of second NIPT.	Prenat Diagn. 39(2): 100-106, 2019	Original Article
13	Ayako Kukida, Yasushi Takasaki, Mio Nakata, et al.	消化管・腫瘍外科学	Development of a postoperative occlusive thrombus at the site of an implanted inferior vena cava filter: A case report	Medicine (Baltimore) 2018 Jan;97(3):e9675	Original Article
14	Shima H, Kiyokawa N, Miharū M, et al.	小児科学	Flow cytometric analysis as an additional predictive tool of treatment response in children with chronic-phase CML treated with imatinib.	Pediatr Blood Cancer (in press) (IF 2.386)	Original Article
15	Eguchi M, Ozaki E, Yamauchi T, et al.	小児科学	Manifestation of recessive combined D-2-, L-2-hydroxyglutaric aciduria in combination with 22q11.2 deletion syndrome	Am J Med Genet A. 2018 Feb;176(2):351-358.	Original Article
16	Uike K, Nagata H, Hirata Y, et al.	小児科学	Effective shunt closure for pulmonary hypertension and liver dysfunction in congenital portosystemic venous shunt.	Pediatr Pulmonol 53: 505-511 (IF: 0.03)	Original Article
17	Kamada T, Imai H, Mashima N, et al.	整形外科	Acetabular reconstruction with the Kerboul-type plate at mid-term follow-up: survivorship analysis and prognostic factors for loosening	Eur J Orthop Surg Traumatol 28(3) 485-491 2018	Original Article
18	Watanabe S, Takahashi T, Takeba J, et al.	整形外科	Factors associated with the prevalence of back pain and work absence in shipyard workers.	BMC Musculoskelet Disord 19(1):12.	Original Article
19	Hino K, Kutsuna T, Watamori K, et al.	整形外科	Bi-cruciate substituting total knee arthroplasty provides varus-valgus stability throughout the midflexion range	The Knee 25(5):897-902 2018	Original Article
20	Kawamoto R, Ninomiya D, Senzaki K, et al.	地域医療学	Interaction between body mass index and serum uric acid in relation to blood pressure in community-dwelling Japanese men	Clin Hypertens. 24: 1, 2018.	Original Article
21	Kawamoto R, Ninomiya D, Kasai Y, et al.	地域医療学	Baseline and changes in serum uric acid independently predict 11-year incidence of metabolic syndrome among community-dwelling women.	J Endocrinol Invest. 41 (8): 959-968, 2018.	Original Article
22	Kawamoto R, Ninomiya D, Kikuchi A, et al.	地域医療学	Baseline and changes in serum uric acid independently predict glucose control among community-dwelling women.	Diabetol Metab Syndr. 10 (7): 55, 2018.	Original Article
23	Tanaka N, Yabe D, Murotani K, et al.	地域生活習慣病・内分泌学	Mental distress and health-related quality of life among type 1 and type 2 diabetes patients using self-monitoring of blood glucose: A cross-sectional questionnaire study in Japan.	J Diabetes Investig 9: 1203-1211, 2018	Original Article
24	Kato S, Takahashi A, Shindo M, et al.	地域生活習慣病・内分泌学	Matsuura B: Characterization of the gastric motility response to human motilin and erythromycin in human motilin receptor-expressing transgenic mice.	BioRxiv 2018, doi: <a href="http://dx.doi.org/10.1101/436436">http://dx.doi.org/10.1101/436436</a>	Original Article
25	Inoue, A., T. Ohnishi, S. Kohno, S. Ohue, S. Iwata, S. Matsumoto, M. Nishikawa, S. Ozaki, Y. Mizuno, R. Kitazawa and T. Kunitada	脳神経外科学	Identification of characteristic features of pineal germinoma that enhance accuracy of preoperative differentiation in pineal region tumors: its significance on optimum surgical treatment.	Neurosurg Rev 41(1): 197-206, 2018	Original Article
26	Inoue A, Ohnishi T, Kohno S, et al.	脳神経外科学	Significance of human chorionic gonadotropin as a predictor of resistance to standard chemo-radiotherapy for pure germinoma	Neurosurg Rev. 41(2): 557-565, 2018	Original Article
27	Kusakabe K, Kohno S, Inoue A, et al.	脳神経外科学	Combined morphological, immunohistochemical and genetic analyses of medulloblastoma in the posterior cranial fossa.	Neuropathology. 2018; 38: 179-184 DOI: 10.1111/neup.12431.	Original Article
28	Tohyama M, Shirakata Y, Hanakawa Y, Dai X, Shiraishi K, et al.	皮膚科学	βcr-3 induced by IL-22 via STAT3 activation acts as a potentiator of psoriasis-related gene expression in epidermal keratinocytes.	Eur J Immunol. 48(1):168-179. Jan.2018	Original Article

小計28件

29	Terui T, Kobayasi S, Okubo Y, et al.	皮膚科学	Efficacy and Safety of Guselkumab, an Anti-interleukin 23 Monoclonal Antibody, for Palmoplantar Pustulosis: A Randomized Clinical Trial.	JAMA Dermatol.E1-E8,Mar.2018	Original Article
30	Utsunomiya R, Dai X, Murakami M, et al.	皮膚科学	Heparinoid suppresses Der p-induced IL-1 $\beta$ production by inhibiting ERK and p38 MAPK pathways in keratinocytes	Experimental Dermatol.;27(9):981-988, Sep.2018	Original Article
31	Uematsu A, Kido K, Manabe E, et al.	病態生理学	DANFIN functions as an inhibitor of transcription factor NF- $\kappa$ B and potentiates the antitumor effect of bortezomib in multiple myeloma	Biochem Biophys Res Commun. 2018 Jan 15;495(3):2289-2295. doi:10.1016/j.bbrc.2017.12.142	Original Article
32	Ishimaru Y, Oshima Y, Imai Y, et al.	病態生理学	Raman Spectroscopic Analysis to Detect Reduced Bone Quality after Sciatic Neurectomy in Mice	Molecules. 2018 Nov 28;23(12):3081. doi:10.3390/molecules23123081	Original Article
33	Valgepea K, de Souza Pinto Lemgruber R, Abdalla T, et al.	プロテオミクス研究部門	H2 drives metabolic rearrangements in gas-fermenting Clostridium autoethanogenum.	Biotechnol Biofuels. 2018 Mar 1;11:55.	Original Article
34	Hirokazu Sakamoto, Satoru Takeo, Eizo Takashima, et al.	分子寄生虫学	Identification of target proteins of clinical immunity to Plasmodium falciparum in a region of low malaria transmission.	Parasitology Int-67(2)-203-208-2018	Original Article
35	Mayumi Tachibana, Tomoko Ishino*, Eizo Takashima, et al.	分子寄生虫学	A male gametocyte osmiophilic body and microgamete surface protein of the rodent malaria parasite Plasmodium yoelii (PyMiGS) plays a critical role in male osmiophilic body formation and exflagellation.	Cell Microbiol-20(5)-e12821-2018	Original Article
36	Toyokazu Miura, Satoru Takeo, Edward H Ntege, et al.	分子寄生虫学	The malaria parasite RhopH protein complex interacts with erythrocyte calmyrin identified from a comprehensive erythrocyte protein library.	Biochem Biophys Res Commun-500(2)-261-267-2018	Original Article
37	Islam A, Choudhury ME, Kigami Y, et al.	分子細胞生理学	Sustained anti-inflammatory effects of TGF- $\beta$ 1 on microglia/macrophages.	BBA - Molecular Basis of Disease 1864: 721-734, 2018. DOI: 10.1016/j.bbadis.2017.12.022	Original Article
38	Ando R, Choudhury ME, Yamanishi Y, et al.	分子細胞生理学	Modafinil alleviates levodopa-induced excessive nighttime sleepiness and restores monoaminergic systems in a nocturnal animal model of Parkinson's disease.	J Pharmacol Sci 136: 266-271, 2018. DOI: 10.1016/j.jpms.2018.03.005	Original Article
39	Abe N, Choudhury ME, Watanabe M, et al.	分子細胞生理学	Comparison of the detrimental features of microglia and infiltrated macrophages in traumatic brain injury: a study using a hypnotic bromovaleurylurea.	Glia 66: 158-2173, 2018. DOI: 10.1002/glia.23469	Original Article
40	Kitazawa R, Haraguchi R, Fukushima M, et al.	分子病理学	Pathologic conditions of hard tissue: role of osteoclasts in osteolytic lesion.	Histochem Cell Biol. 2018 Jan 22.;149(4):405-415, doi: 10.1007/s00418-018-1639-z.	Original Article
41	Ito S, Kitazawa R, Haraguchi R, et al.	分子病理学	Novel GLI3 variant causing overlapped Greig cephalopolysyndactyly syndrome (GCPS) and Pallister-Hall syndrome (PHS) phenotype with agenesis of gallbladder and pancreas.	Diagn Pathol. 2018 Jan 3;13(1):1. doi: 10.1186/s13000-017-0682-8.	Original Article
42	Matsushita S, Suzuki K, Murashima A, et al.	分子病理学	Regulation of masculinization: androgen signalling for external genitalia development.	Nat Rev Urol. 2018 Apr 18. doi: 10.1038/s41585-018-0008-y.	Original Article
43	Takeba J, Umakoshi K, Kikuchi S, et al.	法医学	Accuracy of screw fixation using the O-arm and StealthStation® navigation system for unstable pelvic ring fractures.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2018; 28: 431-438.	Original Article
44	Matsumoto H, Takeba J, Umakoshi K, et al.	法医学	Decreased antithrombin activity in the early phase of trauma is strongly associated with extravascular leakage, but not with antithrombin consumption: a prospective observational study.	Thrombosis J. 2018; 16: 17.	Original Article
45	Yamashita M, Kuwahara M.	免疫学・感染防御学	The critical role of Bach2 in regulating type-2 chronic airway inflammation.	Int Immunol. Feb 24;/doi:10.1093/intimm/dxy020., 2018 Aug 30; 30(9):397-402	Original Article
46	Yamauchi T, Mogi M, Kan-no H, et al.	薬理学	Roles of Angiotensin II Type 2 Receptor in Mice with Fetal Growth Restriction.	Hypertens Res. 41: 157-164, 2018 (IF 3.581)	Original Article
47	Higaki A, Mogi M, Iwanami J, et al.	薬理学	Predicting Outcome of Morris Water Maze Test in Vascular Dementia Mouse Model with Deep Learning.	Plos One 13: e0191708, 2018 (IF 2.806)	Original Article
48	Miyoshi M, Morizane A, Takemasa E, et al.	薬理学	Efficacy of Constant Long-term Delivery of YM-58483 for the Treatment of Rheumatoid Arthritis.	Euro J Pharmacol 824: 89-98, 2018 (IF 2.896)	Original Article
49	Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, et al.	疫学・予防医学	Soy isoflavone intake and prevalence of depressive symptoms during pregnancy in Japan: baseline data from the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study.	Eur J Nutr. 2018; 57: 441-450.	Original Article
50	Watanabe J, Tanaka K, Nagata C, et al.	疫学・予防医学	Breastfeeding duration is inversely associated with asthma in Japanese children aged 3 years.	J Asthma. 2018; 55: 511-516	Original Article
51	Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, et al.	疫学・予防医学	Dietary patterns and depressive symptoms during pregnancy in Japan: baseline data from the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study.	J Affect Disord. 2018; 225: 552-558.	Original Article
52	Miyoshi N, Tanigawa T, Nishioka S, et al.	疫学・予防医学	Association of salivary lactate dehydrogenase level with systemic inflammation in a Japanese population.	J Periodontal Res. 2018; 53: 487-494	Original Article
53	Hisano K, Tanaka K, Nagata C, et al.	疫学・予防医学	High birthweight is associated with increased prevalence of dental caries in Japanese children.	Int J Dent Hyg. 2018; 16: 404-410.	Original Article
54	Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, et al.	疫学・予防医学	Maternal fat intake during pregnancy and behavioral problems in 5-y-old Japanese children.	Nutrition. 2018; 50: 91-96	Original Article
55	Miyake Y, Tanaka K, Arakawa M.	疫学・予防医学	ITIH3 and ITIH4 polymorphisms and depressive symptoms during pregnancy in Japan: the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study.	J Neural Transm. 2018; 125: 1503-1509.	Original Article
56	Koga T, Migita K, Sato T, et al.	解析病理学	MicroRNA-204-3p inhibits lipopolysaccharide-induced cytokines in familial Mediterranean fever via the phosphoinositide 3-kinase $\gamma$ pathway.	Rheumatology (Oxford), 2018; 57: 718-726 DOI: 10.1093/rheumatology/kex451.	Original Article
57	Seck A, Ndiaye F, Maylin S, et al.	解析病理学	Poor Sensitivity of Commercial Rapid Diagnostic Tests for Hepatitis B e Antigen in Senegal, West Africa.	Am J Trop Med Hyg., 2018 ; 99(2): 428-434	Original Article
58	Akbar SMF, Al-Mahtab M, Khan MSI.	解析病理学	Nature of Host Immunity during Hepatitis B Virus Infection and designing Immune Therapy.	Euroasian Journal of Hepato-gastroenterology 8 (1): 42-46. DOI: 10.5005/jp-journals-10018-1256, 2018	Original Article
59	Okada T, Kawada K, Nakamura T, et al.	解剖学・発生学	A cadaveric demonstration of visualization of the urethra using a lighted stent during transanal intersphincteric resection.	Int Cancer Conf J 2018 Mar 5;7(3):77-80	Original Article
60	Sakamoto K, Honda G, Beppu T, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Comprehensive data of 3,820 patients newly diagnosed with colorectal liver metastasis between 2005 and 2007: report of a nationwide survey in Japan.	J Hepatobiliary Pancreat Sci 2018;25(2):115-123	Original Article
61	Yamashita M, Inoue K, Saeki N, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Uhrf1 is indispensable for normal limb growth by regulating chondrocyte differentiation through specific gene expression.	Development 2018 Jan 8;145(1).pii: dev157412. doi:10.1242/dev.157412	Original Article

62	Kawazoe H, Uozumi R, Murakami A, et al.	肝胆腫・乳腺外科学	Olanzapine plus aprepitant, palonosetron, and dexamethasone for nausea and vomiting in patients with breast cancer receiving anthracycline: A retrospective study.	Sci Rep 2018;8(1):16232, doi:10.1038/s41598-018-34618-x	Original Article
63	Namiguchi K, Mizoue S, Ohta K, et al.	眼科学	Effect of Botulinum Toxin A Treatment on Eyelid Pressure in Eyes with Blepharospasm.	Curr Eye Res. 2018 Jul;43(7):896-901.	Original Article
64	Kirito, K., Okamoto, S., Ohishi, K., et al.	血液・免疫・感染症内科学	Evaluation of the dose and efficacy of ruxolitinib in Japanese patients with myelofibrosis.	Int J Hematol. 107(1): 92-97, 2018	Original Article
65	Miyake, N., Chong, Y., Nishida, R., et al.	血液・免疫・感染症内科学	Mycobacterium abscessus and massiliense lung infection during macrolide treatment for bronchiolitis obliterans after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	J Infect Chemother. 24(1): 78-81, 2018	Original Article
66	Muta, T., Yoshihiro, T., Jinnouchi, F., et al.	血液・免疫・感染症内科学	Expansion of NKG2C-expressing Natural Killer Cells after Umbilical Cord Blood Transplantation in a Patient with Peripheral T-cell Lymphoma with Cytotoxic Molecules.	Intern Med. 57(6): 861-866, 2018	Original Article
67	Aota K, Kani K, Yamanoi T, et al.	口腔顎顔面外科学	Distinct Regulation of CXCL10 Production by Cytokines in Human Salivary Gland Ductal and Acinar Cells.	Inflammation. 41(4):1172-1181, 2018	Original Article
68	Aota K, Yamanoi T, Kani K, et al.	口腔顎顔面外科学	Inverse correlation between the number of CXCR3+ macrophages and the severity of inflammatory lesions in Sjögren's syndrome salivary glands: A pilot study.	J Oral Pathol Med. 47(7):710-718, 2018	Original Article
69	Kinouchi M, Izumi S, Nakashiro K, et al.	口腔顎顔面外科学	Determination of the origin of oral squamous cell carcinoma by microarray analysis: Squamous epithelium or minor salivary gland?	Int J Cancer. 143(10):2551-2560, 2018	Original Article
70	Usami T, Fujioka T, Matsubara K, et al.	産婦人科学	Assessment of laparoscopic training for gynecological malignancies using Thiel-embalmed human cadavers.	MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY 9: 511-514, 2018.	Original Article
71	Murata H, Zangwill LM, Fujino Y, et al.	視機能再生学	Validating Variational Bayes Linear Regression Method With Multi-Central Datasets.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2018 Apr 1;59(6):1897-1904.	Original Article
72	Tanito M, Nitta K, Katai M, et al.	視機能再生学	Validation of formula-predicted glaucomatous optic disc appearances: the Glaucoma Stereo Analysis Study.	Acta Ophthalmol. 2019 Feb;97(1):e42-e49.	Original Article
73	Naito T, Yoshikawa K, Namiguchi K, et al.	視機能再生学	Comparison of success rates in eye drop instillation between sitting position and supine position.	PLoS One. 2018 Sep 20;13(9):e0204363.	Original Article
74	Fukui J, Nobutoh C, Okada M, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Association of household income and education with prevalence of hearing impairment in Japan.	Laryngoscope 2018, doi: 10.1002/lary.27758	Original Article
75	Hirofumi Sei, Jumpei Nouta, Shota Miyaji, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Post-transplantation laryngeal actinomycosis	Auris Nasus Larynx 2018	Original Article
76	Misaka T, Murakawa T, Nishida K, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	FKBP8 protects the heart from hemodynamic stress by preventing the accumulation of misfolded proteins and endoplasmic reticulum-associated apoptosis in mice.	J Mol Cell Cardiol 2018; 114: 93-104.	Original Article
77	Taniguchi T, Ohtani T, Kioka H, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Liver Stiffness Reflecting Right-Sided Filling Pressure Can Predict Adverse Outcomes in Patients With Heart Failure.	JACC Cardiovasc Imaging. pii: 2018;S1936-878X(17):31139-7.	Original Article
78	Seike F, Uetani T, Nishimura K, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Intravascular Ultrasound-Derived Virtual Fractional Flow Reserve for the Assessment of Myocardial Ischemia	Circ J 2018; 23: 815-823.	Original Article
79	Minami H, Furukawa S, Sakai T, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Physical activity and prevalence of erectile dysfunction in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: The Dogo Study.	The Dogo study. J Diabetes Investig 9: 193-198, 2018	Original Article
80	Furukawa S, Sakai T, Niya T, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Nocturia and prevalence of depressive symptoms in Japanese adult patients with type 2 diabetes mellitus	The Dogo study. Can J Diabetes 42: 51-55, 2018	Original Article
81	Hiraoka A, Kumada T, Hirooka M, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Real-life Practice Experts for HCC (RELPEC) Study Group and HCC 48 Group (hepatocellular carcinoma experts from 48 clinics): A better method for assessment of hepatic function in hepatocellular carcinoma patients treated with radiofrequency ablation: Usefulness of albumin-bilirubin grade.	Hepatol Res. 48: E61-E67, 2018. [3.418]	Original Article
82	Inoue Y, Shimazawa M, Nakamura S, Tet al.	心臓血管・呼吸器外科学	Both Autocrine Signaling and Paracrine Signaling of HB-EGF Enhance Ocular Neovascularization.	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 38,1 174-185(2018)	Original Article
83	Kovačević I, Sakaue T, Majoleć J, et al.	心臓血管・呼吸器外科学	The Cullin-3-Rbx1-KCTD10 complex controls endothelial barrier function via K63 ubiquitination of RhoB.	J Cell Biol. 2018 Mar 5;217(3):1015-1032. doi: 10.1083/jcb.201606055. Epub 2018 Jan 22	Original Article
84	Nakayama H, Sakaue T, Maekawa M, et al.	心臓血管・呼吸器外科学	Cullin 3 regulates ADAMs-mediated ectodomain shedding of amphiregulin.	Biochem Biophys Res Commun. 2018 Apr 30;499(1):17-23.	Original Article
85	Sao T, Yoshino Y, Yamazaki K, et al.	精神神経科学	MEF2C mRNA expression and cognitive function in Japanese patients with Alzheimer's disease.	Psychiatry Clin Neurosci 72, 160-167, 2018	Original Article
86	Tsuchimine S, Ochi S, Tajiri M, et al.	精神神経科学	Effects of Cytochrome P450 (CYP) 2C19 Genotypes on Steady-State Plasma Concentrations of Escitalopram and its Desmethyl Metabolite in Japanese Patients With Depression.	Therapeutic drug monitoring 40(3):356-361, 2018	Original Article
87	Sao T, Yoshino Y, Yamazaki K, et al.	精神神経科学	TREM1 mRNA Expression in Leukocytes and Cognitive Function in Japanese Patients with Alzheimer's Disease.	J Alzheimers Dis 64, 1275-1284, 2018	Original Article
88	Uesugi Y, Sakai T, Seki T, et al.	地域医療再生学	Quality of life of patients with osteonecrosis of the femoral head: a multicentre study.	Int Orthop. 2018 Jul;42(7):1517-1525.	Original Article
89	Wu J, Mizusawa Y, Ohno S, et al.	地域小児・産科学講座 / 地域小児保健医療学講座	A hERG mutation E1039X produced a synergistic lesion on IKs together with KCNQ1-R174C mutation in a LQTS family with three compound mutations.	Sci Rep. 2018 Feb 15;8(1):3129.	Original Article
90	Suzumori N, Sekizawa A, Matsubara K, et al.	地域小児・産科学講座 / 地域小児保健医療学講座	Fetal cell-free DNA fraction in maternal plasma for the prediction of hypertensive disorders of pregnancy.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 26; 224: 165-169, 2018.	Original Article
91	Sumitomo N, Baba R, Doi S, et al.	地域小児・産科学講座 / 地域小児保健医療学講座	Guidelines for Heart Disease Screening in Schools (JCS 2016/JSPCCS 2016) - Digest Version.	Circ J. 2018 Aug 24;82(9):2385-2444.	Original Article
92	Takeshita E, Furukawa S, Sakai T, et al.	地域消化器免疫医療学	Eating Behaviours and Prevalence of Gastroesophageal Reflux Disease in Japanese Adult Patients With Type 2 Diabetes Mellitus: The Dogo Study.	Can J Diabetes 42: 308-312, 2018	Original Article
93	Noumi Y, Kawamura R, Tabara Y, et al.	糖尿病内科学	An inverse association between serum resistin levels and n-3 polyunsaturated fatty acids intake was strongest in the SNP-420 G/G genotype in the Japanese cohort: The Toon Genome Study.	Clin Endocrinol. 2018 Jan;88(1):51-57.	Original Article
94	Murao S, Takata Y, Yasuda M, et al.	糖尿病内科学	The Influence of Sodium and Potassium Intake and Insulin Resistance on Blood Pressure in Normotensive Individuals Is More Evident in Women.	Am J Hypertens. 2018;31(8):876-885.	Original Article
95	Saito I, Takata Y, Maruyama K, et al.	糖尿病内科学	Association between heart rate variability and home blood pressure: The Toon Health Study.	Am J Hypertens. 2018 Sep 11;31(10):1120-1126.	Original Article
96	H, Matsumoto S, Kunieda T, Takahashi H, et al.	脳神経外科学	Truncated CD200 stimulates tumor immunity leading to fewer lung metastases in a novel Wistar rat metastasis model	Biochem Biophys Res Commun 496: 542-548, 2018. DOI: 10.1016/j.bbrc.2018.01.065	Original Article
97	Suehiro S, Ohnishi T, Yamashita D, et al.	脳神経外科学	Enhancement of antitumor activity by using 5-ALA-mediated sonodynamic therapy to induce apoptosis in malignant gliomas: significance of high-intensity focused ultrasound on 5-ALA-SDT in a mouse glioma model.	J Neurosurg 2018 Jan 19:1-13. DOI: 10.3171/2017.6.	Original Article

98	Fishman PS, Elias WJ, Ghanouni P, et al.	脳神経外科学	neurological adverse event prone of magnetic resonance imaging-guided focused ultrasound thalamotomy for essential tremor	Mov Disord. 33: 843-847, 2018	Original Article
99	Mori H, Murakami M, Utsunomiya R, et al.	皮膚科学	Reduced-HMGB1 suppresses poly(I:C)-induced inflammation in Keratinocytes.	J Dermatol Sci, Vol 90, 154-165, 2018.	Original Article
100	Masuda-Kuroki K, Murakami M, Tokunaga N, et al.	皮膚科学	The microbiome of the "sterile" pustules in palmoplantar pustulosis.	Experimental Dermatology, 27: 1372-1377, 2018	Original Article
101	Ogawa H, Okada M, Shudou M, et al.	病態機能解析	Prevention of ischemia-induced hearing loss by intravenous administration of hydrogen-rich saline in gerbil.	Neuroscience Letters. 665: 195-199, 2018.	Original Article
102	Kiyoi T, Liu S, Sahid MNA, et al.	病態機能解析	High-throughput screening system for dynamic monitoring of exocytotic vesicle trafficking in mast cells.	Plos One 13:e0198785, 2018 (IF 2.806)	Original Article
103	Haraguchi R, Kitazawa R, Imai Y, et al.	分子病理学	Growth plate-derived hedgehog-signal-responsive cells provide skeletal tissue components in growing bone	Histochem Cell Biol. 2018 Apr;149(4):365-373. doi: 10.1007/s00418-018-1641-5.	Original Article
104	Tanabe Y, Kido T, Kurata A, et al.	放射線医学	Late iodine enhancement computed tomography with image subtraction for assessment of myocardial infarction.	Eur Radiol. 2018 Mar;28(3):1285-1292.	Original Article
105	Kawaguchi N, Okayama H, Kawamura G, et al.	放射線医学	Clinical usefulness of coronary flow reserve ratio for the detection of significant coronary artery disease on 13N-ammonia positron emission tomography.	Circ J. 2018 Jan; 82(2): 486-493.	Original Article
106	Fukuyama N, Kurata A, Kawaguchi N, et al.	放射線医学	Two-Phase Contrast Injection Protocol for Pediatric Cardiac Computed Tomography in Children with Congenital Heart Disease	Pediatr Cardiol. 2018 Mar;39(3):518-525.	Original Article
107	Takechi K, Kitamura S, Shimizu I, et al.	麻酔・周術期学	Lower limb perfusion during robotic-assisted laparoscopic radical prostatectomy evaluated by near-infrared spectroscopy: an observational prospective study	BMC Anesthesiol 2018;18:114	Original Article
108	Kitamura S, Takechi K, Nishihara T, et al.	麻酔・周術期学	Effect of dexmedetomidine on intraocular pressure in patients undergoing robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy under total intravenous anesthesia:A randomized, double blinded placebo controlled clinical trial	J Clin Anesth 2018;49:30-35	Original Article
109	Yatabe T, Egi M, Sakaguchi M, et al.	麻酔・周術期学	Influence of Nutritional Management and Rehabilitation on Physical Outcome in Japanese Intensive Care Unit Patients:A Multicenter Observational Study	Ann Nutr Metab 2018;74:35-43	Original Article
110	Junpei Suzuki, Takeshi Yamada, Kazuki Inoue, et al.	免疫学・感染防御学	The tumor suppressor menin prevents erector C/EBP $\beta$ dysfunction by targeting mTORC1-dependent metabolic activation	Nature Communications, #NCOMMS-17-15314C, 2018	Original Article
111	Nomoto M, Iwaki H, Kondo H, et al.	薬物療法・神経内科学	Efficacy and safety of rotigotine in elderly patients with Parkinson's disease in comparison with the non-elderly: a post hoc analysis of randomized, double-blind, placebo-controlled trials	J Neurol. 2018; 265:253-265.	Original Article
112	Ando R, Iwaki H, Tsujii T, et al.	薬物療法・神経内科学	The Clinical Findings Useful for Driving Safety Advice for Parkinson's Disease Patients.	Intern Med. 2018; 57:1977-1982.	Original Article
113	Hattori N, Takeda A, Takeda S, et al.	薬物療法・神経内科学	Efficacy and safety of adjunctive rasagiline in Japanese Parkinson's disease patients with wearing-off phenomena: A phase 2/3, randomized, double-blind, placebo-controlled, multicenter study	Parkinsonism Relat Disord. 2018; 53:21-27.	Original Article
114	Yanagawa H, Nokihara H, Yokoi H, et al.	臨床研究支援センター	Present Status and Perspectives on Future Roles of Japanese Clinical Research Coordinators.	J Clin Med Res. 2018; 10(12):877-882.	Original Article
115	Muneishi, M., Nakamura, A., Tachibana, K., et al.	臨床腫瘍学	Retrospective analysis of first-line treatment for follicular lymphoma based on outcomes and medical economics.	Int. J. Clin Oncol. 23(2): 375-381, 2018.	Original Article
116	Okada Y, Ochi H, Fujii C, et al.	老年・神経・総合診療内科学	Signaling via toll-like receptor 4 and CD40 in B cells plays a regulatory role in the pathogenesis of multiple sclerosis through interleukin-10 production.	J Autoimmun 88: 103-113, 2018.	Original Article
117	Igase K, Igase M, Matsubara I, et al.	老年・神経・総合診療内科学	Mismatch between TOF MR Angiography and CT Angiography of the Middle Cerebral Artery may be a Critical Sign in Cerebrovascular Dynamics.	Yonsei Med J 59: 80-84, 2018.	Original Article
118	Li G, Yamasaki R, Fang M, et al.	老年・神経・総合診療内科学	Novel disease-modifying anti-rheumatic drug iguratimod suppresses chronic experimental autoimmune encephalomyelitis by down-regulating activation of macrophages/microglia through an NF- $\kappa$ B pathway.	Sci Rep 8: 1933, 2018.	Original Article

計118件

(注)

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭者名の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 病院長の責務、研究者等の責務、倫理審査委員会の設置、個人情報等、重篤な有害事象への対応に関する手順、研究の信頼性確保、研究実施に関する窓口	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 利益相反管理の対象、利益相反委員会、利益相反相談室、自己申告書の提出等の手続き	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容 臨床研究法のエッセンス～統合指針との違い、特定臨床研究・臨床研究への当否の境界線、臨床研究をとりまく法制と臨床研究法のエッセンス	

(注) 前年度の実績を記載すること。



(様式第4)

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

### 1 研修の内容

#### 第一内科 【血液内科】 【膠原病・リウマチ内科】 【感染症内科】

第一内科の専門領域は、血液、膠原病・リウマチ、感染症である。カンファレンスやセミナーを頻回に開催し、内科学会総合内科専門医、血液学会専門医、リウマチ学会専門医、感染症学会専門医を取得できるように、研修・指導を行っている。また、最近社会的ニーズが非常に高い臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医の育成にも努力している。

#### 第二内科 【循環器内科】 【呼吸器内科】 【腎臓内科】

当科に所属する日本内科学会総合内科専門医、日本循環学会専門医、日本呼吸器学会専門医、日本腎臓専門医、日本老年病専門医、日本臨床遺伝専門医、日本アレルギー学会専門医、日本不整脈学会専門医、日本高血圧学会専門医が血管機能解析、腎生検、血液浄化療法、肺癌化学療法、経気管支鏡的肺生検・吸引針生検、冠動脈形成術、心臓再同期療法、心筋焼灼療法等の高度医療を指導し、専門医の育成を行った。

#### 第三内科 【消化器内科】 【肝臓内科】 【内分泌代謝内科】

この領域は、第三内科が研修を担当する。消化器病として消化管・肝・胆・膵領域、甲状腺・副腎皮質などの内分泌領域、糖尿病をはじめとする糖代謝、脂質代謝、尿酸代謝、金属代謝などの代謝領域、および栄養学の研修を指導した。研修では各々の領域の患者に対して先端的な診療、検査に触れるとともに、カンファレンスを通して理解を深め、目標を持ち自律的意欲的に研修、習得する医師の養成を目指している。当科のスタッフは日本内科学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本肝臓学会指導医、日本超音波学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本糖尿病学会指導医、日本内分泌学会指導医、日本アレルギー学会指導医、日本病態栄養学会専門医、NST稼働施設責任者等の各種指導資格を有しており、各領域の専門研修による専門医の育成とともに、内科を幅広く柔軟に診療できる内科医の育成を目指して研修・指導を行っている。

#### 【老年・神経内科】

神経内科、老年病、脳卒中、認知症などの専門医が、神経疾患、脳卒中や認知症の診療を教育した。入院診療では、免疫性神経疾患や変性疾患などを主体として、神経学的診察、末梢神経・中枢神経の電気生理検査、針筋電図や超音波検査(頸部血管、経頭蓋、経食道)などの専門手技の研修を行った。また、認知症診療では、愛媛県認知症疾患医療センターやもの忘れ外来診療を中心に、薬物治療や介護保険の利用法、その他の社会支援制度利用や生活指導の方法などの教育を行った。

#### 糖尿病内科・臨床検査医学【糖尿病内科】

糖尿病専門医・指導医、内科専門医・指導医による専門的かつ総合的な研修を実施した。具体的には、1型糖尿病の診断・管理、急性代謝異常の診断・管理、2型糖尿病の診断・管理、その他特定の型(2次性)糖尿病の診断・管理、糖尿病合併妊娠及び妊娠糖尿病の診断・管理、周術期の血糖管理、持続皮下インスリン注入療法(CSII)を用いた血糖管理、持続血糖測定(CGM)を用いた血糖管理、ならびに糖尿病合併症の診断・治療・管理・予防教育を行った。

#### 【薬物療法・神経内科】

脳神経疾患の診断・治療・教育研修とともに、特に難治性神経疾患の治療薬の研究・開発・研修を行った。また、臨床研究に必要な手法の研究開発と基盤整備、および法務上必要な研修、指導を行った。研修後に総合内科専門医、神経内科専門医、認知症専門医、頭痛専門医、臨床薬理専門医を取得している。

### 【精神科】

大学病院及び関連病院にて研修を行っている。後期研修以降は、それぞれのサブスペシャリティを決定し、その分野で研鑽をつみ、精神科医としての技能や知識を習得する。また、下記の項目にも重点をおく。

1. 児童思春期、青年期、老年期のそれぞれの年代の症例、また器質性、機能性、反応性の各精神障害の症例すべての臨床経験を獲得するよう主治医としてかかわる。
2. 臨床研究として、学会発表を行う。
3. 国内・国際学会、教室内外の勉強会に参加する。
4. クロザピン投与、修正型電気けいれん療法、光トポグラフィーなど極めて専門性の高い検査・治療に携わる。

また、臨床経験5年後には、精神保健指定医を取得し、日本精神神経学会専門医の獲得ができるよう環境を整えている。

### 【小児科】

後期研修1年目より専門医の取得を目指し小児の各分野の高度医療を実践する。特に新生児の管理・治療、小児がんの造血細胞移植などの高度医療、循環器疾患のインターベンション治療を含めた高度医療、難治性神経疾患の治療、遺伝性疾患の遺伝カウンセリングなどの他、感染症、内分泌・代謝、アレルギー、腎、膠原病などの幅広い小児科の分野の研修を行っている。また研修期間中は予防接種、健診などの予防医療についても研修を行っている。

### 【消化器腫瘍外科】

消化器（主に消化管）癌に対する外科的治療（開腹、内視鏡、ロボット支援手術）を系統的に学び、更に化学療法、放射線治療などの集学的治療による治療戦略を学ぶことができる臨床研修を行う。外科専門医のみならず内視鏡外科技術認定医を目指した高度な手術技術を指導する。ドライラボ、アニマルラボ、シミュレータ、カダバーによる習熟度に応じた手術指導も定期的に開催し、スキルアップを図る体制を用意している。

### 【肝胆膵・移植外科】

肝臓、胆のう、膵臓疾患について、画像診断から治療方針の決定、外科治療など消化器外科専門医並びに消化器病専門医及び肝胆膵外科高度専門医を取得できるように、研修、指導を行った。

### 【心臓血管・呼吸器外科】

- 1 心臓血管外科におきましては、外科専門医、心臓血管外科専門医の資格の取得に必要な、経験、技術、知識、人間性を習得することを目標としています。将来、専門医として社会貢献できる医師を目指す研修を行った。
- 2 呼吸器外科におきましては、外科専門医、呼吸器外科専門医の取得が可能です。呼吸器外科疾患の適切な診断能力と治療方針はもちろん、呼吸器センターの一員として、あらゆる状況において応用可能な能力を身につける研修を行った。

### 【脳神経外科】

日本脳神経外科学会研修プログラムに則って、研修指導医の下で、脳神経外科の診断と治療に必要な知識と基本的技術を習得させるため、基本診療科の一つとして、愛媛大学と関連連携施設で研修をすすめる。当施設では脳卒中センター、脊椎センター、手術手技研修センターにおいて、脳卒中の急性期治療（脳血管内治療を含む）、脊椎・脊髄疾患の診療、手術に必要な微小解剖のトレーニングを中心としている。脳腫瘍・脳血管疾患、脊椎・脊髄の主要な疾患の他に、小児脳神経外科、機能神経外科、感染症などの田崎な疾患群全てを研修可能である。それによって、脳神経外科専門医取得にあたっての、十分な臨床経験を積める環境が整っている。

### 【整形外科】

運動器疾患全般に関して、科学的知識と高い社会的倫理観を備えた医師を養成すべく、進歩す

る医学知識と最新の医療技術を研鑽させた。特に以下の3点に重点を置いた教育を行った。

- 1, 高齢者のQOLを支える医療
- 2, エビデンスに基づく幅広い治療方針
- 3, 水準の高い治療で早期の社会復帰をサポート

さらに、整形外科専門医習得に必要な臨床症例の経験と論文作成・学術発表の指導も行った。

#### 皮膚科、形成外科 【皮膚科】 【形成外科】

皮膚科学会、形成外科学会の研修施設認定を受けている。

皮膚科では湿疹や感染症などの日常的疾患から、皮膚がん、自己免疫性疾患、重症薬疹、先天性疾患などの希少疾患までを対象とした総括的かつ専門性の高い研修を行っている。必要研修期間終了時には専門医の取得が可能である。

形成外科では小児の先天性疾患からマイクロサージャリーによる再建手術まで、広範囲かつ高度な専門的な技術を習得できる研修を行っている。いずれも必要研修期間終了時には専門医の取得が可能であり、その後さらに皮膚腫瘍外科専門医、レーザー専門医、頭蓋顎顔面外科専門医などの取得も可能である。

#### 【泌尿器科】

副腎、尿路、男性生殖器の診断、治療に関する研修を行います。効率的に泌尿器科医としての研修を受け、10年間の研修を修了すれば、泌尿器科医として独り立ちできるように県下基幹病院と協力して独自の研修システムを整備しています。その中で当科では、腎や副腎、膀胱などの鏡視下手術、ロボットを用いた前立腺手術、各種開腹手術、尿路結石や膀胱癌に対しての内視鏡的手術、婦人科泌尿器科手術、慢性腎不全に導入から腎移植までの研修を行っています。また、尿路上皮癌や前立腺癌に対する抗癌化学療法や放射線治療なども、全国的にもリーダー的存在で、専門性の高い研修を行っています。

#### 【眼科】

日本眼科学会の研修プログラム基幹研修施設として眼科指導医のもとで、眼科学の進歩に応じて、眼科医の知識と医療技術を高め、すぐれた眼科医を養成するための指導を行った。研修プログラムでは、外来患者および年間1000例以上の手術症例を中心に、眼科一般の診断と治療に必要な知識と基本的技術を取得させる内容となっている。また、高度な医療技術、特に難易度の高い手術のための知識やその実行には、頭頸部のより高度な解剖学的知識が要求されるため、御遺体を用いて以下の涙道手術手技研修を行っている。

#### 【耳鼻咽喉科】

日本耳鼻咽喉科学会の研修施設認定を受けており、耳鼻咽喉科学ならびにその関連領域における医学の進歩に応じて、耳鼻咽喉科医の知識と医療技術を高め、すぐれた耳鼻咽喉科医の養成を図った。研修プログラムには、耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部の各領域における十分な専門性を有する指導医をおき、年間500例以上の手術症例を中心に研修を行った。人工内耳などの最先端耳鼻咽喉科医療の指導体制も充実している。

#### 放射線科 【放射線診断分野】 【放射線治療分野】

1. 診断専門医は、画像診断 (X線、CT、MRI、超音波等)、核医学、インターベンションラジオロジー (IVR) の専門的知識と診療技術を習得し、この知識と技術に基づいた検査の選択・指示・実施・管理等が出来るようにする。
2. 放射線治療専門医は、悪性腫瘍および一部の良性疾患に関して、放射線治療の効果、照射術式とその計画、有害事象、治療前中後の管理などについての専門知識と診療技術を駆使した適正な放射線治療が行えるようにする。

#### 産婦人科 【周産期医学分野】 【婦人科腫瘍分野】 【女性医学分野】 【生殖医療分野】

日本産科婦人科学会専門医指導医のもと、上記4領域において患者を担当する医療者チームの一

員として診断・治療に携わる。4領域に関する研修ガイドラインに基づいて臨床に必要な基本知識・産婦人科疾患に対する検査・診断・治療を以下の項目を目標に修得する。

1. 周産期医学分野：母体合併症妊娠における母児の問題点および管理法、超音波検査を用いた胎児の推定体重や血流測定を含めた胎児の元気度の評価や構造異常の評価に関して修得する。分娩管理については、分娩進行の評価につき研修し、分娩介助および帝王切開の適応・手技についても修得する。
2. 婦人科腫瘍分野：婦人科疾患における超音波検査・CT検査・MRIなどの画像診断を用いた診断学の修得を行う。内診による腫瘍の進展度の評価やコルポスコーピーによる子宮頸部病変の評価について研修する。開腹術・腹腔鏡下の婦人科手術手技を理解し、基本的手技および周術期管理の実際について修得する。
3. 女性医学分野：女性の内分泌疾患に対する診断・管理やホルモン補充療法、更年期障害に対するアプローチについて研修する。
4. 生殖医療分野：不妊症の検査・診断および生殖補助技術\*以外の排卵誘発法やタイミング法などの基本的な治療について研修する。（\*：生殖補助技術については、他施設において研修する。）

#### 【麻酔科蘇生科】

臨床の現場において、手術における全身麻酔や区域麻酔，集中治療管理，痛みの治療の研修指導を行い，さらに下記の研修を通して，より高度な医療技術を身につけるよう指導した。

1. 高機能シミュレータを用いた全身麻酔手技の習得
2. 危機的状況を想定したシナリオトレーニング
3. 緩和ケア医療の研修

#### リハビリテーション部 【リハビリテーション科】

日本リハビリテーション医学会専門医の指導の下、以下の項目を目標とした教育プログラムを行った。

- 1) 診断学：リハビリテーションを行う上で必要な、各種画像検査・電気生理学的検査・病理診断・超音波検査などを、評価・施行できる。運動障害や高次脳機能障害だけでなく、嚥下障害、心肺機能障害、排泄障害の評価といった、関連領域も評価ができる。
- 2) 治療：全身状態の管理ができる。障害評価に基づく治療計画が立てられる。各種リハビリテーション（理学療法・作業療法など）に加え、義肢装具の処方・ブロック療法・薬物治療・生活指導などができる。

#### 【救急科】

専攻医には、以下の3つの学習方法で専門研修を行います。

- 1 臨床現場での学習：経験豊富な指導医が中心となり救急科専門医や他領域の専門医とも協働して、専攻医に広く臨床現場での学習を提供します。
  - 1) 救急診療や手術での実地修練 (on-the-job training)
  - 2) 診療科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス
  - 3) 抄読会・勉強会への参加
  - 4) 臨床現場でのシミュレーションシステムを利用した、知識・技能の習得
- 2 臨床現場を離れた学習：国内外の標準的治療および先進的・研究的治療を学習するために、救急医学に関連する学術集会、セミナー、講演会および JATEC、JPTEC、ICLS コースなどの off-the-job training course に積極的に参加します。救命処置法の習得のみならず、インストラクターコースへ参加できるように配慮し、その指導法を学びます。また、研修施設もしくは日本救急医学会等が開催する認定された法制・倫理・安全に関する講習にそれぞれ少なくとも1回は参加します。
- 3 自己学習 専門研修期間中の疾患や病態の経験値の不足を補うために、日本救急医学会等が準

備する「救急診療指針」、e-Learning などを活用した学習を病院内や自宅で利用できる機会を提供します。 研修プログラムの実際と特徴 本研修プログラムは、各専攻医の希望を考慮し、個々の基本モジュールの内容を吟味した上で、基幹施設・連携施設のいずれの施設からの開始に対しても対応できるように設計された研修コースです。本研修プログラムによる救急科専門医取得後には、集中治療、外傷、熱傷などの救急科関連領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動を選択することが可能です。プログラム期間中に当大学病院等で研修を行いながら愛媛大学大学院医学系研究科への社会人大学院進学を認めています。また本研修プログラム管理委員会は、基幹研修施設である愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センターと協力し、大学卒業後 2 年以内の初期研修医の希望に応じて、将来、救急科を目指すための救急医療に重点を置いた初期研修プログラム作成にもかかわっています。

#### 【歯科口腔外科】

外来における初診患者の問診、初診診察、診断、治療の口腔外科疾患一連の流れ、および手術手技難易度分類の中等度までにおける外来外科処置の執刀および術後のfollowを行った。

また、病棟においては入院から退院までの口腔癌、顎変形症、炎症、外傷、嚢胞性疾患患者等の患者管理および中等度相当までの執刀を指導医の元、経験した。臨床外に関しては、口腔外科関連論文の抄読会を担当し、学術的理解にも励んだ。

#### 【病理科】

病理専門医は、病理学総論と諸臓器の疾患に関する病理学的知見に基づいて、医療の根幹である病理診断（病理解剖、手術・生検標本診断、細胞診）を行い、臨床医との相互討論を通じて医療の質を担保し、高度先進医療、地域医療の推進に寄与する。本院では、「患者に学び患者に還元する医療」の姿勢で、医療倫理、医療安全を実施し、社会的ニーズに応じた病理専門医を育成する。病理専門研修では、日本病理学会の「専門研修手帳」に記された基準を満たすよう、知識・技能・態度の指導を行う。病理解剖については、視聴覚教材とマンツーマン指導による手技の修得・肉眼所見と病理組織標本検鏡・診断書作成、全例CPCを行う。手術・生検標本の診断と細胞診断は、業務マニュアルによる切り出し手技や報告書作成の標準化と、指導医によるマンツーマン指導・全例検閲を行う。臨床科との症例検討会での発表討論を日常的に行い、愛媛県病理研究会、中四国支部会、日本病理学会総会での症例報告を指導する。基礎の病理学講座との連携のもとに、分子病理学的研究手法の研鑽を奨励する。病理診断学の修練のみならず、専門医取得後のキャリア形成に留意し、後進の指導にあたる人材育成を目指す。

#### 睡眠医療センター 【睡眠医療】

睡眠障害の診断・治療について、専門的研修を実施する。日本睡眠学会認定医療機関であり、年間200例以上の終夜睡眠ポリグラフィ実施を基盤とした睡眠障害の生理学的診断法、ならびに睡眠覚醒メカニズムに即した治療手法について、学会認定医が研修を担当する。国際学会での発表、論文指導も行う。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

## 2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	154人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

### 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
竹中 克斗	第一内科	教授	28年	内科・感染症
長谷川 均	第一内科	特任教授	40年	膠原病・リウマチ
羽藤 高明	輸血・細胞治療部	特任教授	39年	血液
薬師神 芳洋	腫瘍センター	教授	31年	腫瘍内科
大蔵 隆文	腎臓内科	教授	33年	
池田 俊太郎	循環器内科	准教授	27年	
山口 修	呼吸器内科	教授	24年	循環器・呼吸器・高血 圧内科学
日浅 陽一	第三内科	教授	29年	消化器・内分泌・代謝 内科学
大八木 保政	老年・神経内科	教授	34年	神経内科・老年病
大澤 春彦	糖尿病内科・臨床 検査医学	教授	31年	
永井 将弘	薬物療法・神経内 科	特任教授	31年	
上野 修一	精神科	教授	34年	
石井 榮一	小児科	教授	40年	
檜垣 高史	地域小児・周産期	教授	31年	
田内 久道	感染制御部	准教授	29年	
渡部 祐司	消化管腫瘍外科	教授	36年	
高田 泰次	肝臓・胆のう・膵 臓・移植外科	教授	36年	消化器外科、肝胆膵・ 移植外科
泉谷 裕則	心臓血管・呼吸器 外科	教授	31年	心臓血管外科
佐野 由文	心臓血管・呼吸器 外科	准教授	34年	呼吸器外科
國枝 武治	脳神経外科	教授	26年	脳神経外科
三浦 裕正	整形外科	教授	36年	
佐山 浩二	皮膚科・形成外科	教授	35年	
雑賀 隆史	泌尿器科	教授	32年	
白石 敦	眼科	教授	33年	
羽藤 直人	耳鼻咽喉科	教授	30年	耳鼻咽喉科
望月 輝一	放射線科	教授	39年	放射線診断分野
濱本 泰	放射線科	准教授	29年	放射線治療分野
杉山 隆	産婦人科	教授	32年	周産期・女性医学分野
松原 圭一	産婦人科	教授	32年	周産期医学分野
藤岡 徹	産婦人科	准教授	28年	婦人科腫瘍分野
萬家 俊博	麻酔科蘇生科	教授	35年	
相引 眞幸	救急科	教授	41年	
中城 公一	歯科口腔外科	准教授	26年	
北澤 理子	病理診断科	特任教授	25年	

岡 靖哲	睡眠医療センタ ー	准教授	26年 年	睡眠医療
------	--------------	-----	----------	------

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

<検査部>

- ・研修内容：「倫理、個人情報保護および接遇について」（検査部勉強会）
- ・実施日：平成30年4月24日～26日・3回
- ・受講者数：44名
  
- ・研修内容：「第20回国公立大学附属病院感染対策協議会」
- ・実施日：平成30年10月15日～16日・1回
- ・受講者数：3名
  
- ・研修内容：「平成30年度国公立大学病院医療技術関係職員研修（臨床検査技術者）」
- ・実施日：平成30年10月30日～11月2日・1回
- ・受講者数：1名

<放射線部>

- ・研修の主な内容                   PET研修セミナー
- ・研修の期間・実施回数       平成30年5月 1回
- ・研修の参加人数               1名
  
- ・研修の主な内容                   2018医学物理士セミナー
- ・研修の期間・実施回数       平成30年5月 1回
- ・研修の参加人数               1名



・研修の主な内容 PACSベーシックセミナー

・研修の期間・実施回数 平成30年6月 1回

・研修の参加人数 4名

・研修の主な内容 日本放射線治療専門放射線技師認定機構教育セミナー

・研修の期間・実施回数 平成30年8月 1回

・研修の参加人数 1名

・研修の主な内容 医学物理サマーセミナー2018

・研修の期間・実施回数 平成30年8月 1回

・研修の参加人数 1名

・研修の主な内容 PETサマーセミナー2018

・研修の期間・実施回数 平成30年8月 1回

・研修の参加人数 1名

・研修の主な内容 国公立大学病院診療放射線技術者研修

・研修の期間・実施回数 平成30年10月 1回

・研修の参加人数 1名

・研修の主な内容 核医学技術セミナー

・研修の期間・実施回数 平成31年3月 1回

・研修の参加人数 3名

<薬剤部>

・研修の主な内容 新人看護職員研修(薬剤管理)

・研修の期間・実施回数 2018年4月6日

・研修の参加人数 80名

・研修の主な内容 新規採用者研修(医師)

・研修の期間・実施回数 2018年4月4日

・研修の参加人数 29名

・研修の主な内容 新規採用者研修(メディカルスタッフ)

・研修の期間・実施回数 2018年4月6日

・研修の参加人数 8名

・研修の主な内容 病棟看護師研修(薬剤の作用と副作用について)

・研修の期間・実施回数 2018年7月17日

・研修の参加人数 20名

・研修の主な内容 検査技師研修(薬剤の血中濃度について)

・研修の期間・実施回数 2018年9月16日

・研修の参加人数 35名

・研修の主な内容 全職員向け感染対策研修(抗菌薬コンサルテーションについて)

・研修の期間・実施回数 2018年11月13～14日・2回

・研修の参加人数 356名

・研修の主な内容 病棟看護師研修(抗がん剤の作用と副作用について)

・研修の期間・実施回数 2018年11月21日

・研修の参加人数 22名

・研修の主な内容 病棟看護師研修（ハイリスク薬剤の作用と副作用について）

・研修の期間・実施回数 2018年11月27日

・研修の参加人数 25名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

<放射線部>

・研修の主な内容 塩化ラジウム (Ra-223) 注射液を用いたRI内用療法における適正使用に関する安全取扱講習会

・研修の期間・実施回数 平成30年5月 1回

・研修の参加人数 1名

・研修の主な内容 放射線治療品質管理士講習会

・研修の期間・実施回数 平成31年2月 1回

・研修の参加人数 2名

・研修の主な内容 全国国立大学放射線技術者研修診療放射線技師医療安全セミナー

・研修の期間・実施回数 平成31年2月 1回

・研修の参加人数 1名

<薬剤部>

・研修の主な内容 病棟看護師研修（向精神薬の管理について）

・研修の期間・実施回数 2019年1月7日

・研修の参加人数 23名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

<検査部>

・研修内容：「感染管理に必要な微生物の知識」（講演）

・実施日：平成30年6月9日・1回

・受講者数：100名

・研修内容：「抗核抗体検査をもっと知ろう！」（講演）

・実施日：平成30年6月24日・1回

・受講者数：120名

・研修内容：「遺伝子検査の基礎知識」（講演）

・実施日：平成30年7月7日・1回

・受講者数：50名

・研修内容：「微生物検査における培養・同定検査について」（講演）

・実施日：平成30年9月16日・1回

・受講者数：125名

・研修内容：「血管エコー実技研修会」講演

・実施日：平成30年9月30日・1回

・受講者数：50名

・研修内容：「検査部における個人情報保護の現状」（講演）

・実施日：平成30年11月10日・1回

・受講者数：70名

・研修内容：「病院内における輸血部の役割」（講演）

・実施日：平成30年12月15日・1回

・受講者数：80名

・研修内容：「一般検査における形態学の基礎知識」（講演）

・実施日：平成31年1月19日・1回

・受講者数：120名

・研修内容：「細菌検査における形態学・・・って？」（講演）

・実施日：平成31年1月19日・1回

・受講者数：120名

・研修内容：「心臓エコー実技研修会」

・実施日：平成31年3月3日・1回

・受講者数：100名

#### <薬剤部>

・研修の主な内容 多施設合同新人看護職員研修（薬剤の基礎知識）

・研修の期間・実施回数 2018年6月29日

・研修の参加人数 124名

- ・研修の主な内容 保険薬局薬剤師研修（腎排泄型薬剤について）
- ・研修の期間・実施回数 2018年11月29日、2019年2月15日、2019年3月10日
- ・研修の参加人数 7名、10名、12名

以下、多部署共同

- ・研修の主な内容 愛媛県災害医療従事者研修（医薬品の備蓄について）
- ・研修の期間・実施回数 2018年6月23日
- ・研修の参加人数 33名
- ・研修の主な内容 NST研修（栄養剤について）
- ・研修の期間・実施回数 2018年7月6日、7月12日、7月13日、11月16日、11月30日、  
2019年2月22日、3月8日
- ・研修の参加人数 1名、1名、1名、1名、1名、2名、1名
- ・研修の主な内容 肝炎コーディネーター研修（肝炎治療薬について）
- ・研修の期間・実施回数 2018年10月26日
- ・研修の参加人数 36名
- ・研修の主な内容 HIV感染症出張講義  
(西条市民病院、愛媛医療センター、愛媛障害者職業センター)
- ・研修の期間・実施回数 6月18日、7月4日、7月31日
- ・研修の参加人数 173名
- ・研修の主な内容 HIV 感染者・エイズ患者の在宅医療・介護実地研修
- ・研修の期間・実施回数 10月22-26日、11月26-30日、1月28-2月1日

・研修の参加人数	6名 (2名×3)
----------	-----------

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
管理責任者氏名	病院長 三浦 裕正	
管理担当者氏名	医療情報部長 今井 祐記 看護部長 久保 幸 薬剤部長 田中 亮裕 放射線部長 望月 輝一 ME機器センター長 泉谷 裕則 総務課長 武智 和康 医事課長 齋藤 英雄 人事労務課長 久保 秀二 研究協力課 猪野 周宜 医療サービス課長 戒能 直樹	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	手術部
		看護記録	病棟
		検査所見記録	医療情報部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医療情報部
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部
		従業者数を明らかにする帳簿	人事労務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究協力課
		高度の医療の研修の実績	人事労務課
		閲覧実績	総務課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 薬剤部
医療に係る安全管理のための指針の整備状況		医療サービス課	
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療サービス課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療サービス課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療サービス課

カルテは医療情報部で一括管理(主に電子カルテ, 古いモノは一部紙カルテ)

1患者1カルテ  
 病院外への持ち出しは例外を除き原則禁止。禁止にも関わらず持ち出した場合は, 申請し, 審査を受けることとなっている。



		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療サービス課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療サービス課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療サービス課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療サービス課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME機器センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部 総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部 総務課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部 総務課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部 総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療サービス課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療サービス課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部 総合診療サポートセンター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療サービス課 医事課 人事労務課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	運営部長 赤澤 正人		
閲覧担当者氏名	総務課長 武智 和康		
閲覧の求めに応じる場所	総務課 (医学部管理棟3階)		
閲覧の手続の概要			
閲覧請求者は、国立大学法人愛媛大学情報公開取扱規程に基づき「法人文書開示請求」を提出し、承認の決定後、「開示の実施方法の申出書」に基づき閲覧する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者中心の医療の実践</li> <li>2. チーム医療の実践</li> <li>3. 医療安全に関する組織的取組</li> <li>4. インシデントの報告と情報の共有</li> <li>5. 機能する医療事故防止対策</li> <li>6. 適切な医療事故への対応</li> <li>7. 患者相談の実施、指針等の閲覧</li> <li>8. 医療安全管理教育・研修、啓発</li> <li>9. 医療安全管理マニュアルの作成・更新</li> </ol> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無 (有・無)</li> <li>・ 開催状況：年 1 2 回</li> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療に係る安全管理のための指針の策定及び変更に関する事</li> <li>2. 医療事故防止対策の検討及び研究に関する事</li> <li>3. インシデントの分析及び再発防止策の検討に関する事</li> <li>4. 医療事故調査制度に対応する死亡原因判定に関する事</li> <li>5. 医療事故防止のための啓発、教育及び研修に関する事</li> <li>6. 医療事故に対する対応策の策定に関する事</li> <li>7. 患者及び家族等の被害者への対応に関する事</li> <li>8. 関係公的機関への報告に関する事</li> <li>9. 報道に関する事</li> <li>10. その他、医療安全管理及び医療事故対策に関する事</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容 (すべて)：               <p>第1回「医療安全管理体制について (医療安全概論・重大事故発生時の対応とRRS)」平成30年5月21日開催</p> <p>第2回「DNAR (do not attempt resuscitation) の考え方 (救急医の立場から・緩和ケアの立場から)」平成30年10月19日開催</p> <p>第3回「医療者が知っておきたい医療の質・安全の確保に関する世界的潮流と具体的な取組み」平成30年12月26日開催</p> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全ラウンド：年2回計画的に実施</li> <li>2. インシデント報告後の現場ラウンド、ヒアリング (随時)</li> <li>3. 改善事例発表会：年1回医療現場からの公募方式で実施</li> </ol> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>2. 院内感染対策のための委員会その他院内の組織に関する基本的事項</li> <li>3. 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本指針</li> <li>6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本指針</li> <li>7. その他院内感染対策の推進のための基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染の調査、予防対策に関すること</li> <li>2. 院内感染防止の実施、監視及び指導に関する活動</li> <li>3. 院内感染発生時の措置に関すること</li> <li>4. 職員の院内感染の教育に関すること</li> <li>5. その他院内感染防止に関すること</li> </ol> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：               <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 ASTの導入と愛媛大学医学部附属病院の感染対策について (平成30年7月2日～平成30年7月4日 開催)</li> <li>第2回 抗菌薬コンサルテーションの実際 ～AST(抗菌薬適正使用支援チーム)について～ AMR(薬剤耐性)対策アクションプラン実現に向けて (平成30年11月13日～平成30年11月14日 開催)</li> <li>第3回 手指衛生に係る肌荒れ対策について (平成31年2月1日, 平成31年2月12日 開催)</li> </ul> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 ASTの導入と愛媛大学医学部附属病院の感染対策について (平成30年7月2日～平成30年7月4日 開催)</li> <li>第2回 抗菌薬コンサルテーションの実際 ～AST(抗菌薬適正使用支援チーム)について～ AMR(薬剤耐性)対策アクションプラン実現に向けて (平成30年11月13日～平成30年11月14日 開催)</li> <li>第3回 手指衛生に係る肌荒れ対策について (平成31年2月1日, 平成31年2月12日 開催)</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年4月24日 医療安全セミナー 「処方薬・薬袋の取扱いについて」 「注射薬の取扱いについて」 「持参薬の取扱いについて」 「医薬品の適正使用について」 「麻薬の安全使用について」</li> <li>平成30年9月7日 医療安全セミナー 「インシデントより考える麻薬の適正な取扱い」 「麻薬及び向精神薬取締法に則った向精神薬の取扱い」</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有・無)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書として「医薬品安全管理手順書」を作成（平成19年7月1日策定）。平成30年度は平成31年2月に改定を行った。現在、令和元年度版改訂中である。</p> <p>医薬品安全手順書に基づく業務の実施状況は医療安全管理部と薬剤部が協働して行う年2回の医療安全ラウンドにおいて各部署の確認を行い、業務改善が必要な事項について指導し、改善を行っている。医療安全ラウンドでの各部署における確認結果は、毎月の医療安全管理部会議、医療安全管理委員会、リスクマネージャー会議で報告を行い、院内での情報共有を行っている。さらに、薬剤部で毎月開催している医療安全管理カンファレンスにおいても報告を行い、薬剤師間での情報共有を図っている。</p> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <p>セレン欠乏症のためのセレン内服液の使用 皮膚切開線のマーキングのための院内製剤ピオクタニブルエタノール液の使用 骨肉腫に対するパゾパニブ救済治療 小腸癌に対するゼローダを用いた救済治療 など</p> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>●調剤時以外での禁忌該当薬剤の確認体制 <p>薬剤部薬品情報管理室において、処方薬剤に対して禁忌病名が登録されている入院患者情報を抽出している。抽出された情報に基づき病棟担当薬剤師が担当医に禁忌該当薬剤に対する疑義照会を行い、当該薬剤処方継続の可否の確認、必要に応じて処方提案を行っている。また、疑義照会の結果、既に終了している病名であった場合は病名整理を依頼し、適切に医薬品が使用できるよう努めている。また、これらの病名に関する禁忌の情報は毎月医事課にも報告しており、医事課からも病名整理を依頼している。</p> </li> <li>●医療安全管理委員会への医薬品安全管理報告体制 <p>医薬品安全管理体制を担っている部門（薬剤部）における医薬品の安全使用に係る業務を医療安全管理委員会へ報告している。内容は院内副作用報告件数および医薬品安全性情報報告件数、院内院外疑義照会件数、プレアボイド報告件数、禁忌該当薬剤の確認数等である。医療</p> </li> </ul> </li> </ul>	

安全管理委員会は医薬品安全管理体制の部門を監査し、必要に応じて意見することとしている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年20回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 新規医療機器導入時</li> <li>② 使用方法、保守点検に関して</li> <li>③ 有用性や安全性に関して</li> <li>④ 不具合等発生時の対応に関して</li> <li>⑤ 学会、研修会への出席</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 定期点検と日常点検および不良対応点検</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)：</li>   <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)          ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>愛媛大学医学部附属病院副院長に関する規定          第3条3          病院長は、医療安全を担当する副院長を医療法施行規則第9条の20の2第1項第1号に規定する医療安全管理責任者に指名し、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括させる。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (3名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>薬品情報管理室において医薬品に関する情報（イエローレター、ブルーレター、回収・出荷停止、適正使用のお願い、医薬品・医療機器等安全性情報、医薬品安全対策情報、PMDA 医療安全情報、日本医療機能評価機構医療安全情報、添付文書改訂、PMDA からの公知申請情報・適応外情報）を一元的に収集し、院内メーリングリストや院内イントラネット、電子カルテ掲示板を利用し周知している。また、DI ニュース、プレアボイドニュース、薬事委員会において決定した新規採用・削除薬一覧表（NewFace）を作成し、メーリングリストおよび紙媒体等を用いて院内へ周知している。特に重要な情報（イエローレター、ブルーレター、その他薬品情報管理室が重要と判断した内容）については、上記の周知に加えてデータウェアハウスを用いて抽出した該当薬品使用中の全患者を対象とした適正使用のモニタリング、処方医に対する電子カルテでの個別メールによる情報提供も行っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>院内において未承認、適応外あるいは禁忌薬（以後、未承認新規医薬品等）を新たに使用する場合には、未承認新規医薬品等評価部に必要書類を提出する。書類とは①未承認新規医薬品等 申請・報告書式、②患者向け説明文書、③患者同意書、④患者同意撤回書、⑤未承認新規医薬品等を使用する根拠となるエビデンス（文献等）、⑥添付文書であり、未承認新規医薬品等評価部は申請内容に関して未承認新規医薬品等評価委員会に意見を求めた上で使用の可否を決定する。なお、承認された未承認新規医薬品等に関しては実施報告書や適正使用モニタリング等の管理を行う。</p> <p>また、薬剤部において薬剤師が調剤時に当該薬品が未承認新規医薬品等に該当すると認識した場合は、担当医へ疑義照会を行い、必要に応じて妥当性の確認や処方提案</p>	

を行っている。結果に関しては診療録へ記録し、必要に応じて医薬品安全管理責任者へ報告している。これらの未承認新規医薬品等に係る疑義照会情報は薬品情報管理室で収集し、院内の医療安全管理委員会へ報告する体制をとっている。

・ 担当者の指名の有無 (有)・無

・ 担当者の所属・職種：

(所属：未承認新規医薬品等評価部 ， 職種 薬剤師 (副薬剤部長))

(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 (薬品情報管理室室長))

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

(有)・無

・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ((有)・無)

・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：

確認方法：各リスクマネジャーを通して確認

指導内容：説明内容，説明手順，説明方法，成立要件，説明同意書，診療録への記載，  
責任者の配置

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

(有)・無

・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

日々、診療録の量的な監査（入院診療計画書，退院時要約，手術記録，経過記録等の確認）を中央病歴室（診療情報管理士及び医療事務有資格事務員）にて実施し，記載内容に不備等がある場合は記載者へ連絡し修正を依頼している。

年2回，診療録の質的な監査（入院診療計画書，退院時要約，手術記録，経過記録等の記載内容の確認）を医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、診療情報管理士等が実施し，その結果を診療記録管理委員会にて報告，検討を行っている。そこで議決された診療録記載上注意すべき点や指導すべき点等を記載医師所属診療科及び院内へ周知している。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

- ・所属職員：専従（４）名、専任（２）名、兼任（２０）名
- うち医師：専従（１）名、専任（２）名、兼任（ ９）名
- うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（１）名
- うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（７）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. 報告があったインシデントのモニタリング、分析及び影響レベルの判定に関する事
2. インシデント審議委員会及びインシデント調査委員会に関する事
3. インシデントごとの解決策及び再発防止策の企画・立案に関する事
4. 医療安全体制システム及びマニュアルの見直しに関する事
5. 医療安全管理委員会で決定した事項についての周知の確認及びそれに必要な指導に関する事
6. 安全管理に関する教育・研修等の実施に関する事
7. 医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成・保存等の運営に関する事
8. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び必要な指導に関する事。
9. 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認及び必要な指導に関する事
10. 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び必要な指導に関する事
11. 他の委員会、患者相談窓口等他部門及びリスクマネージャー等との連絡調整に関する事
12. 医療事故防止等に係る情報提供に関する事
13. その他医療の質の向上及び安全管理に関する事

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（６件）、及び許可件数（６件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：

高難度新規医療技術を用いた医療の適正な提供を図るために、審査を行い、適否等の決定を行う。また、全ての症例について、提供された医療の安全性、適正性を定期的に評価する。有害事象発生時及び患者が死亡した場合は、当該診療科から報告を受け、適切な処置や対策を講ずる。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・  無 )
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  有 ・  無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 ( 37 件 ) 、及び許可件数 ( 37 件 )
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  有 ・  無 )
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有 ・  無 )
- ・ 活動の主な内容 :  
 未承認新規医薬品等を用いた医療の適正な提供を図るために、審査を行い、適否等の決定を行う。  
 また、全ての症例について、提供された医療の安全性、適正性を定期的に評価する。有害事象発生時及び患者が死亡した場合は、当該診療科から報告を受け、適切な処置や対策を講ずる。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・  無 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有 ・  無 )

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 171 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 39 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容  
 患者影響レベル 3b 以上のインシデントの分析及び再発防止策の検討。死亡事例検討会の結果報告確認

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (  有 (病院名 : 富山大学附属病院) ・  無 )
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (  有 (病院名 : 千葉大学医学部附属病院) ・  無 )
- ・ 技術的助言の実施状況  
 全職員向け研修の受講率の改善 (特に医師の受講率) について指摘があり、医療安全管理委員会

等にて周知を行った。また、未承認新規医薬品等の使用について使用患者を把握する仕組みが必要との指摘があり、使用開始報告書を作成する運用を開始した。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

総合診療サポートセンターが患者からの相談窓口となっている。個室の面談室9室、オープンな相談ブースを4ヶ所設置し、対応している。中でも、医療安全に係る相談については、総合診療サポートセンターのメディエーターが主に対応し、医療サービス課・医療安全管理部が連携できる体制をとっている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 新規採用者へのオリエンテーション
2. 医療安全に関する講演会（3回）
3. 医療安全セミナー（4回）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

平成30年度特定機能病院管理者研修

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の4名が受講

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師免許を有している者</li> <li>・ 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者</li> <li>・ 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者</li> <li>・ 教育・研究・診療に必要な資質・能力を有している者</li> </ul> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 愛媛大学HPに掲載</li> </ul>
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
八尋 秀典	理事(財務・人事マネジメント)	○	学長が指名する理事	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
山下 政克	医学系研究科長		役職指定	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
羽藤 直人	医学専攻長		役職指定	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
日浅 陽一	附属病院副病院長		学長が指名する副病院長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
久保 幸	附属病院看護部長		役職指定	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
土居 英雄	株式会社愛媛新聞社 代表取締役社長		国立大学法人愛媛大学経営 協議会委員	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
福富 治	前株式会社愛媛銀行 常務取締役 株式会社愛媛パートナ ーエージェント顧問		前国立大学法人愛媛大学経 営協議会委員	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
横山 ぬい	株式会社エス・ピー・シ ー常務取締役		国立大学法人愛媛大学経営 協議会委員	有 <input checked="" type="radio"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容 運営方針, 中期計画, 予算及び決算その他病院の運営に関する重要事項</li>   <li>・審議の概要の従業者への周知状況 愛媛大学医学部内職員専用サイトに資料・議事要旨を掲載</li>   <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</li> <li>・公表の方法 愛媛大学HPに掲載</li>   <li>・外部有識者からの意見聴取の有無 ( (有)・無 )</li> </ul>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
三浦 裕正	○	医師	病院長／人工関節センター長
杉山 隆		医師	副病院長(総務・診療担当)／周産母子センター長
國枝 武治		医師	副病院長(病院経営担当)
萬家 俊博		医師	副病院長(医療安全・危機管理担当)／手術部長／ 痛みセンター長
日浅 陽一		医師	副病院長(地域連携・地域医療再生担当)／総合診療 サポートセンター長
久保 幸		看護師	副病院長(患者サービス担当)／看護部長
今井 祐記		医師	副病院長(橋渡し研究推進担当)／医療情報部長
竹中 克斗		医師	第一内科長
山口 修		医師	第二内科長
大八木 保政		医師	脳神経内科長
大澤 春彦		医師	糖尿病内科・臨床検査医学科長／検査部長

永井 将弘		医師	臨床薬理神経内科長／臨床研究支援センター長／ 臨床研究データセンター長
川本 龍一		医師	総合診療科長
上野 修一		医師	精神科長／認知症疾患医療センター長
江口 真理子		医師	小児科長／臨床遺伝医療部長
渡部 祐司		医師	消化器腫瘍外科長／高難度新規医療技術評価部長／ 材料部長／低侵襲・がん治療センター長
高田 泰次		医師	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科長／臓器・組織移植センタ ー長
泉谷 裕則		医師	心臓血管・呼吸器外科長／ME 機器センター長
今井 浩		医師	整形外科長／リハビリテーション部長
佐山 浩二		医師	皮膚科長
中岡 啓喜		医師	形成外科長
雑賀 隆史		医師	泌尿器科長
白石 敦		医師	眼科長／細胞プロセッシングセンター長
羽藤 直人		医師	耳鼻咽喉科長
望月 輝一		医師	放射線科長／放射線部長／臨床研究 COI マネジメント 部長
内田 大亮		歯科医師	歯科口腔外科・矯正歯科長
佐藤 格夫		医師	救急科長／救急部長
鈴木 純		医師	医療安全管理部長
山之内 純		医師	輸血・細胞治療部長
池宗 啓蔵		医師	集中治療部長
北澤 理子		医師	病理部長
池田 宜央		医師	光学医療診療部長
菊川 忠彦		医師	透析治療部長
渡邊 英昭		医師	脳卒中センター長
池田 俊太郎		医師	循環器病センター長
利光 久美子		管理栄養士	栄養部長
伊賀瀬 道也		医師	抗加齢・予防医療センター長
田内 久道		医師	感染制御部長



薬師神 芳洋		医師	腫瘍センター長／緩和ケアセンター長
森野 忠夫		医師	脊椎センター長
宮川 正男		医師	PETセンター長
佐野 由文		医師	呼吸器センター長
打田 俊司		医師	小児総合医療センター長
原 祐子		医師	屈折矯正センター長
亀井 義明		医師	乳腺センター長
岡 靖哲		医師	睡眠医療センター長
本田 弘文		診療放射線技師	放射線治療品質保証室長
堀内 史枝		医師	子どものこころセンター長
田中 守		薬剤師	未承認新規医薬品等評価部長
田中 亮裕		薬剤師	薬剤部長／臨床研究クオリティマネジメント部
宮本 仁志		臨床検査技師	診療支援部長
高田 清式		医師	総合臨床研修センター長
今村 健志		医師	先端医療創生センター長
徳本 良雄		医師	肝疾患診療相談センター長
谷本 一史		医師	造血細胞移植センター長
赤澤 正人		事務職員	医学部運営部長
山下 政克		教員	医学系研究科長(医学部長)
松浦 文三		医師	地域生活習慣病・内分泌講座 教授

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）

- ・ 公表の方法  
愛媛大学HPに掲載

- ・ 規程の主な内容  
人事権限・予算執行権限

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

【職名】副病院長（総務・診療担当/病院経営担当/医療安全・危機管理担当/地域連携・地域医療再生担当/患者サービス担当/橋渡し研究推進担当）

【役割】病院長の職務を補佐し、病院長から指示された重要な事項を処理する。

【職名】（副病院長のうち総務担当）

【役割】病院長が不在又は事故があるときは、その職務を代理する。

【職名】（副病院長のうち医療安全担当）

【役割】医療安全管理責任者として医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
厚労省委託事業の特定機能病院管理者養成研修に4名参加し、国立大学附属病院長会議等企画の病院経営次世代リーダー養成塾に2名参加した等、各種研修の受講を促している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p style="padding-left: 20px;">次の事項について審議する。</p> <p style="padding-left: 40px;">(1) 病院の医療安全に係る業務執行状況の監査に関すること。</p> <p style="padding-left: 40px;">(2) 安全管理状況及び改善状況に関すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p style="padding-left: 20px;">愛媛大学HPに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
西村 誠明	愛媛県立中央病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 (無)	1
大熊 伸定	弁護士法人松山中央法律事務所		法律に関する識見を有する者	有 (無)	1
河野 和博	愛媛県難病等患者団体連絡協議会 愛媛県腎臓病患者連絡協議会		医療を受ける者	有 (無)	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容  
監査室を設置し、監事及び会計監査人と連携して監査を実施している。

- ・ 専門部署の設置の有無 (  有 ・ 無 )

- ・ 内部規程の整備の有無 (  有 ・ 無 )

- ・ 内部規程の公表の有無 (  有 ・ 無 )

- ・ 公表の方法

愛媛大学HPに掲載

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況            国立大学法人法に基づき、役員会・経営協議会を設置し、病院の業務・管理運営及び経営に関する重要事項を審議・報告している。</li> <li>会議体の実施状況            (役員会 H30年度 24回 経営協議会 H30年度 3回)</li> <li>会議体への管理者の参画の有無および回数 ( <input checked="" type="radio"/> 有・無 )            (役員会 H30年度 21回 経営協議会 H30年度 3回)</li> <li>会議体に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有・無 )</li> <li>公表の方法            愛媛大学HPに掲載</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法</li></ul> <p>愛媛大学教職員向けポータルサイト内に「相談窓口」のページを設け、様々な事案毎の相談窓口及び連絡先等を掲載している。その中に、医療安全管理の適正な実施に関する情報提供を受け付ける相談窓口の設置について掲載しており、加えて、本件について事務連絡メールを全教職員に送付し周知を図っている。</p>

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 病院機能評価：公益財団法人日本医療機能評価機構 2016年10月18日～10月19日 * 認定期間 2017年1月21日～2022年1月20日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 本院の目的・目標、果たすべき役割及び実績等をまとめた冊子「医学部／附属病院概要」を毎年作成・発行するとともに、電子BOOKとしてオリジナルホームページにも掲載している。 また、DPCデータによる病院指標も公表し、当院の特徴や急性期医療の現状を理解していただくよう情報発信に務めている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 中央診療施設において、複数診療科等を組み合わせたセンターによる診察を行っている。 1. 周産母子センター (産婦人科、小児科) 2. 小児医療総合センター (小児科、心臓血管・呼吸器外科) 3. 呼吸器センター (第二内科、心臓血管・呼吸器外科)	

4. 脊椎センター（整形外科、脳神経外科）
5. 睡眠センター（第二内科、耳鼻咽喉科）
6. 循環器病センター（第二内科、心臓血管・呼吸器外科）
7. 緩和ケアセンター（腫瘍センター、麻酔科蘇生科）
8. 認知症疾患医療センター（精神科、薬物療法・神経内科、老年・神経内科）
9. 子どものこころセンター（精神科、小児科）

など